

歌舞伎と芝居・役者絵における広告的役割

—呉服屋の宣伝を中心に—

The role of advertising in Kabuki and shibai-e, yakusha-e

—Focusing on the kimono shops—

白土 亜枝

Aki SHIRATO

1. はじめに

江戸時代は、戦国時代とは異なり、徳川家、江戸幕府の支配による泰平の世が続いた。社会制度が確立した平穏の世の中、経済活動が活発に行われるようになると、歌舞伎や浮世絵といった新たな文化が生まれた。

経済活動の活発化は、消費文化の成立を促すとともに、業種間での競争を生み、商品の性質や魅力を人々に訴える必要性を生じさせた。そのような中で、大きく発展を遂げていったもののひとつとして広告が挙げられる。本研究では、「広告」を物事、人について広く世間に広めること、伝えること、またその手法や媒体と定義する。

江戸時代の広告に関する研究は、大別すると以下の三つに分けられる。ひとつ目は、江戸時代の広告についてその全体を概観するもの、ふたつ目は、各業種や企業ごとの広告戦略に関する研究である。三つ目は、浮世絵に見られる広告に関する研究が挙げられる¹⁾。しかしながら、これらの研究は、それぞれの業種について行われるにとどまり、業種間の連携といった点には殆ど触れられていない。

そのため、本研究では、江戸時代に多くの人々の関心を集めていた歌舞伎、呉服屋、浮世絵を

とり上げ、中でも歌舞伎と呉服屋に注目し、広告とそれを楽しんでいた人々の視点から、それぞれのビジネスの連携について明らかにするとともに、歌舞伎、浮世絵における芝居絵・役者絵が果たした広告的役割について明らかにすることを目的とする(図1)。

研究方法としては、芝居絵、役者絵をはじめとした浮世絵と文献資料を用い、以下の手法で研究を進める。第1段階では、江戸時代における歌舞伎、浮世絵、呉服屋について、当時の人々の視点から整理、概観する。第2段階では、広告と歌舞伎、浮世絵、呉服屋との関わりについて調査する。以上をふまえ、第3段階では、まず歌舞伎、浮世絵、呉服屋の連携について考察し、第4段階では、歌舞伎、芝居絵・役者絵が広告において果たした役割について考察する。

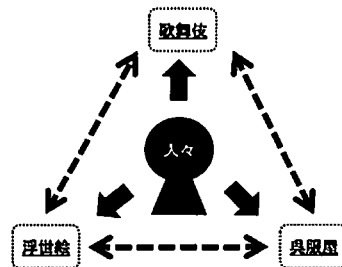


図1. 研究目的

2. 人々からみた歌舞伎・浮世絵・呉服屋

歌舞伎、浮世絵、呉服屋が、江戸時代の人々の関心を集めていたことは明らかである。人々が歌舞伎、浮世絵、呉服屋をどのように捉えていたのかについて概観をする。

2-1. 歌舞伎

歌舞伎は、慶長 8 (1603) 年に阿国によって創始され、当初から人々の熱狂を集めていた。歌舞伎の特徴として、時の権力者により保護されていた能や狂言とは異なり、非権力者である町人を中心とした人々の支持を受け成立した芸能である点が挙げられる。そのため、歌舞伎は存続のために客の支持を受け続けることが不可欠であり、人々の求めているものを敏感に捉える性格を備えていた。

また、野郎歌舞伎以前の歌舞伎においては、好色との関わり²⁾が深かったが、幕府からの度重なる規制によって、次第にその中心は芝居へと移行していく。それに伴い、芝居の脚本や道具類、衣裳などが多様化していくとともに、立役や女方など役柄の分化が生まれ、今日の歌舞伎にみられる要素が構築されていった。

人々は、芝居を見ることは勿論の事、役を演じる役者への注目を増していく。役者は今日でいうところの芸能人のような存在となり、人気役者が描かれた役者絵 (図 2) は、プロマイドとして人気を集め、多くの役者絵が制作された³⁾。

また、服飾においても役者の影響が見られるようになる。帯結びや役者模様、役者色など、芝居において役者が着用、考案した服飾は、人々の注目の的⁴⁾であり、役者は江戸時代のファッションリーダーともいべき存在であった⁵⁾。このように、役者が発信した服飾が流行した背景としては、役者と同じものを着用したいというファンの心理や、それを着用することで役者と近い関係になれるような錯覚が得られるとともに、対外的に役者のファンであることを示す



図 2. 「四世松本幸四郎の肴屋五郎兵衛」
東洲斎写楽画 (東京国立博物館所蔵)
画像提供: 東京国立博物館

目的があったのではないと思われる。つまり、自己満足とともに、その充足感を他者に表現して見せることに意味があったと考えられるのである。

2-2. 浮世絵

浮世絵⁶⁾は、最新の風俗、時世相を映し出す風俗画として、町人を中心とした庶民に親しまれた。それまで絵画の中心を占めていたのは、「洛中洛外図屏風」などに代表される近世初期風俗画と呼ばれる作品であった。屏風絵が中心であった近世初期風俗画は、贅を尽して制作されるものであり、その受容者層の多くは権力者であった。しかし、浮世絵、中でも一枚の原画から多くの絵画を制作することが可能な浮世絵版画の登場で、絵画の受容者層は大きく広がり、多くの人々の絵画鑑賞を可能とした⁷⁾。

また、浮世絵は絵画としての役割だけでなく、プロマイドや土産物といった役割も果たすようになる。それに伴い、描かれる主題も多様とな

り、歌舞伎や遊里といった娯楽、市中の美人を描いたものや風景画、風刺画、武者絵、物語絵など、人々が興味を抱いていた物事を主題とした浮世絵が制作された。

2-3. 呉服屋

金銭的に豊かになり、生活にも余裕がみられるようになった人々の関心は、服飾へも向けられた。これは、武家を中心とした権力者に限らず、次第に裕福になっていった町人をはじめとした人々に広まっていった。その結果、武家女性とは異なる、町人女性の小袖様式が生まれ、育まれていった⁹⁾。また、町人女性は、新たな技法を積極的に取り入れるとともに、様々な意匠を小袖へと取り込んでいった。こうした、町人女性たちの服飾への関心をふまえ、小袖を注文する際の見本やファッション誌として用いられた小袖模様雛形本が次々と刊行された。そのため、呉服屋は人々の流行を捉え、新たなものを次々と提供していくことを求められ、結果として流行を作り出していく存在ともなっていた。

3. 広告と歌舞伎・浮世絵・呉服屋

江戸時代には、広告が多くの場面で用いられていた。例えば、看板や暖簾⁹⁾、引札¹⁰⁾といった一目でその特徴が分かるものもあれば、歌舞伎や浮世絵など多種多様な媒体を用い展開される広告もあった。中には、歌舞伎役者や市中の美人、遊女などをイメージキャラクターとして起用した広告や、ひとつの商品の広告を多種多様な媒体に展開したマルチ広告¹¹⁾も確認することができ、今日の広告にも見られる手法と類似した手法が既に江戸時代に用いられていた。

このように江戸時代において広告が発展した理由としては、ふたつの要因が考えられる。

ひとつ目は、社会的要因である。江戸時代は、戦国の乱世とは異なり、社会の安定が保たれた時代である。また、貨幣経済が確立し、日常を

楽しむことのできる社会階層が形成され、消費文化が花開いた時代でもある。その結果、商業的目的から商品や物事を多くの人々に知らせ、関心を持たせる必要性、つまり、広告の必要性が生じ、またその役割が重要となった。

ふたつ目は、技術発達の要因が挙げられる。印刷技術の進歩により、版本や版面の印刷が安価に行えるようになった。その結果、浮世絵や案内本、草双紙など多様な出版物が制作された。これは、広告においても例外ではなく、先に述べた出版物や引札など、紙の安定供給と印刷技術の発達により、多くの広告物が制作された。

こうして、江戸時代の広告は社会的基盤の成立と技術的進歩のふたつの要因が重なりあったことで、大きな発展を遂げた。また、印刷物に限らず、広告の媒体は多様化していき、広告は商売に欠かせないものとしての位置を確立していった。

次に、歌舞伎、浮世絵、呉服屋に注目し、それぞれの広告についてまとめる。

3-1. 歌舞伎における広告

歌舞伎における広告は大きく次のふたつに分けることができる。ひとつは、歌舞伎の芝居の中で行われる広告劇という形式をとるものであり、もうひとつは浮世絵を用いて展開される広告である。

広告劇について、松宮三郎は、「芝居を広告媒体として利用することである。」と述べている¹²⁾。つまり、芝居の台詞の中に巧妙に商品の名前や店名を織り込み宣伝を行うものであり、芝居を見せながらも、実は広告の役割を担っているものが広告劇であるといえる。代表的な広告劇としては、歌舞伎十八番のひとつでもある「外郎売」が挙げられる¹³⁾。「外郎売」は、薬売りに扮した役者が、妙薬「透頂香」の由来や薬の効果を説明するものであり、観客は、役者の早口の台詞に驚くが、その実は薬の宣伝を聞かされている。

浮世絵を用いた広告については、ふたつの手



図 3.「出語り・四代目岩井半四郎の小春と三代目沢村宗十郎の次兵衛」鳥居清長画
(東京国立博物館所蔵)
画像提供：東京国立博物館



図 4.「東都三十六景之内本町 糸屋小糸 岩井米二郎」
豊国画 (式亭三馬店の「金勢丸」看板入り)
(公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京所蔵)

法を見ることができる。ひとつは、芝居の一場面を切り取って描いたものであり、これは、歌舞伎興行に関する広告の役割を果たしていた(図 3)。

もうひとつは、役者をイメージキャラクターとして起用した広告である。例えば、市川團十郎、岩井紫若を起用した歯磨きの広告¹⁴⁾や岩井米二郎を起用した酔い覚まし金勢丸の広告(図 4)がこれにあたる。役者の広告への起用については、人々がその役者に関心をもっていたこと、女性を中心にその役者に憧れを抱いていたことから、広告塔として起用されたと考えられる。

3-2. 広告と浮世絵

浮世絵版画の登場により多くの絵画を制作することが可能になると浮世絵を用いた多くの広告が制作された。そもそも絵画は視覚情報を伝達する機能を根本的に持っており、これが多く



図 5-1.「浅草金龍山八境 柳屋の店頭」
鳥居清長画 (東京国立博物館所蔵)
画像提供：東京国立博物館



図 5-2.「東海道五十三次 鳴海」
歌川広重画（東京国立博物館蔵）
画像提供：東京国立博物館



図 6.「東都名所 駿河町之図」
歌川広重画（国立国会図書館蔵）

の人々の目に触れることになれば、情報メディアと成り得るからである。それらは、人物をイメージキャラクターとして描くものが多く、役者絵や芝居絵、風景画の一部として描くものの他、一見広告とは見えないように宣伝の要素を織り込むものもある。

これらは、人々の関心や興味をふまえ、それを反映する形で制作されたと考えられる。例えば、市中の美人や遊女、歌舞伎役者を商品とともに描き出した広告については、人々の憧れの存在、また興味を引く人々をイメージキャラクターとして起用したものである。描かれた人物に惹かれ、手にとった浮世絵は、自然と広告の役割を果たす（図 5-1）。また、東海道や各地の名所などの風景の中に描きこまれた暖簾や看板などの広告もある（図 5-2）。

3-3. 広告と呉服屋

呉服屋についてはどのような広告を行っていたか、広告戦略に注目し述べていく。呉服屋における広告は、歌舞伎や浮世絵、引札、案内本など、多種多様な媒体を用い展開された。例えば、越後屋においては、「現金掛け値なし」¹⁵⁾というキャッチコピーを皮切りに、多くの広告が制作された。浮世絵においては、呉服屋の暖簾が描かれた江戸市中の風景（図 6）や、美



図 7.「江戸「駿河町越後屋呉服店」と美人初春図」
初代国貞・画
(公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京蔵)

人とともに呉服屋を描いた作品（図 7）を確認することができる¹⁶⁾。加えて、越後屋においては、屋号が表された傘が雨の日には貸し出されるなど、人々が広告と意識せず、自然と目に入ってくるものにも広告が展開された。これらの手法を用いた広告は、大丸呉服店¹⁷⁾や白木屋呉服店¹⁸⁾等にも同様の事例を確認することができる。

また、越後屋は様々な広告を展開するだけでなく、その広告がどの程度の効果があったのか、広告効果に関する調査¹⁹⁾も行っている。

ただ闇雲に、越後屋という名前を訴えるだけでなく、それが広告の受け手である人々に伝わっているか確認している点から、ある一定の広告戦略に基づいて広告を展開していたことが分かる。

人々の生活が豊かになるにつれ、服飾に関する関心は次第に大きなものになっていった。それにともない、呉服屋における競争も次第に激しくなっていたと考えられる。そこで必要となったものが、人々のニーズを汲みながら、自身をアピールする広告であったのではないだろうか。

4. 広告を通して見た歌舞伎・浮世絵・呉服屋の関係性について

人々からの視点と企業からの視点、両者の視点に加え、それぞれ展開された広告に注目し、歌舞伎、浮世絵、呉服屋の関係性について明らかにする。

はじめに、歌舞伎と呉服屋について注目する。歌舞伎は、人々にとって欠かせない娯楽であり、役者たちは憧れの存在として、女性たちの注目を集めていた。また、歌舞伎も、人々の動向や関心事を捉え、新しい芝居を次々と制作する一方で、『守貞漫稿』²⁰⁾に

三都ともに近世の婦女役者最良と云て芝居俳優を己が愛する者の定紋を簪に製し或は襦半の襟に絞り其他に用ふ者ありと雖ども衣服等の紋には用ひず假令衣服に用ひずとも假初にも夫の紋をさしおき俳優に通せずと雖ども其紋を愛すること心已に淫れり可(レ)誠の一也御殿女中など専ら手巾烟管等に俳優の紋を描くこと坊間より甚し是亦弊風ならずや。

(下線部筆者)

とあるように、役者模様や色、役者の定紋をつけるといった服飾や化粧品、髪型など様々な流行を作り出す存在であった²¹⁾。

一方で、呉服屋またその商品である呉服も町人女性を中心として大きな関心を集めていた。経済的に豊かになった町人女性は、装うことへ

の楽しみを見出し、新たな技法や意匠を取り入れることにも積極的であった。また、呉服屋も町人女性のニーズを汲み取り、小袖を制作するとともに、小袖模様雛形本を用いた意匠の提案を行い、流行を先導していた。

以上をまとめると、人々は歌舞伎、呉服それぞれに関心を持ち、またその流行にも敏感であった。また、歌舞伎、呉服屋は、人々のニーズを捉え、新たなものを提供する存在であったといえる。そのため、提供する物は違っていても、流行を作り出すという点において、両者は類似した存在であったと考えられる。

広告の観点から歌舞伎、呉服屋についてみると、双方が連携をとっている例も指摘されている²²⁾。また、歌舞伎の演目には、「京鹿子娘道成寺」のようにしばしば染織技法や服飾名を外題に取り入れた例²³⁾も見られる。これは、人々の新しい技法への関心の高さを反映し、取り入れたものであろう。

浮世絵においても、呉服屋の宣伝のため、遊



図 8.「佐野川市松・まさご御前」
鳥居清広画 (東京国立博物館所蔵)
画像提供: 東京国立博物館

郭や商家、歌舞伎役者の代表的美人²⁴⁾を越後屋呉服店の暖簾の前に立たせた様子を描いた公益財団法人吉田秀雄記念事業財団アド・ミュージアム東京所蔵「江戸「駿河町越後屋呉服店」と美人初春図」(図7)がある。また、役者色や役者模様をアピールするため、役者模様・色の服飾を人気役者が着用している例²⁵⁾も見られる。例えば、市松模様の衣裳を着用した佐野川市松を描いた東京国立博物館所蔵「佐野川市松・まさご御前」(図8)がある。役者は、江戸時代のファッションリーダーともいべき存在であったことから、呉服屋または呉服の広告に多く起用されていたことがわかる。このように、広告における歌舞伎と呉服屋・呉服の繋がりは深いといえる。

また、歌舞伎と呉服屋の連携は、広告だけに限ったものではなかった。江戸時代の歌舞伎衣裳の多くは、呉服屋で制作されたとされ、絢爛豪華な歌舞伎衣裳は多くの利益を呉服屋にもたらした²⁶⁾。また、役者の着用により、流行を集めた役者模様や役者色を取り入れた服飾類の多くは、呉服屋により制作されたとされている²⁷⁾。例えば、「式部さん景ヶ島戻り」において、五代目尾上菊五郎をはじめとした役者が着用した菊五郎格子の浴衣は、白木屋によって売り出された。その利益は、傾きかけた白木屋を持ち直すほどであり、経済効果は莫大なものであった²⁸⁾。

役者個人の人気の高まりに触発された、役者模様や役者色に対する人々の関心は大きく、それらを用いた商品は呉服屋により多く制作された。つまり、歌舞伎と呉服屋が、双方に利益を得るために、互いに協力し生み出されたものが、役者模様や役者色であったと考えられる。役者模様・役者色を表した商品の制作は、呉服屋に経済的利益をもたらすとともに、その商品を着用した人々が市中を歩けば、自然と役者の宣伝にもなり、広告の役割も果たしていたといえる。

次に、歌舞伎と浮世絵について述べる。浮世絵は、人々にとって絵画鑑賞を楽しむものであ

るとともに、最新の風俗を知るための手段でもあった。その一方で、浮世絵は人々に様々な情報を提供する媒体であった。中でも、歌舞伎役者が描かれた役者絵はプロマイドとして、また芝居絵は公演の様子を知らせるものとして、多くの人々に享受されていた。つまり、浮世絵と人々は、情報の提供者と受容者の関係であったといえる。

以上をふまえ、歌舞伎と浮世絵、人々の関係性についてまとめると、人々は歌舞伎、浮世絵それぞれに関心を持ち、楽しむとともに、それらから風俗や服飾に関する最新の情報を得ていた。その一方で、歌舞伎と浮世絵は、人々の関心を捉え、情報を提供する存在であり、その点において両者は類似したものであったといえる。

類似した性質を備えた歌舞伎と浮世絵は、広告においても関係性が深い。浮世絵は最新の風俗を伝えるといった機能を持つことに加え、安価で大量に制作できたことから、広告媒体として適したものであった。役者絵や芝居絵のように、芝居の広告のために制作された浮世絵もあれば、歯磨きや仙女香の広告のように、役者たちをイメージキャラクターとして起用したものもある。また、中には公益財団法人吉田秀雄記念事業財団アド・ミュージアム東京所蔵「東都三十六景之内本町 糸屋小糸 岩井米二郎」(図4)のように、人気役者とともに店の看板を描いたものもある。これらは、歌舞伎や役者たちの人気を反映し制作されたが、人々の憧れの存在とされる役者を起用することは、人々の関心を引くとともに、浮世絵の購入へと繋がっていった。

そのような歌舞伎と浮世絵の繋がりの中で、制作されたものが芝居絵や役者絵であったと考えられる。芝居絵や役者絵は、江戸で出版された浮世絵の大半を占めていたとされており、版元をはじめとする浮世絵の制作側にとっては大きな利益を生み出す重要な商品であった。また、歌舞伎側にとっても、芝居の広告として、また

役者の人気を高めるために、芝居絵、役者絵は欠かせないものであり、特に、新しい芝居の上演の際には、多くの浮世絵が制作されたとされ、²⁹⁾ 話題を集めるために、芝居絵や役者絵は、不可欠なものであった。人々が歌舞伎と浮世絵、両者に関心をもっていたことから、歌舞伎役者を主題とした芝居絵や役者絵が多数制作された。芝居絵や役者絵は浮世絵の制作者側、歌舞伎側双方にとって利益をもたらすものとして、有益なものであったといえるのである³⁰⁾。

最後に呉服屋と浮世絵について述べる。人々は服飾への関心を抱くとともに浮世絵には最新風俗の提供を求めている。そして、人々の服飾への関心の高まりをふまえ、呉服屋・浮世絵はそれぞれ新しいものを提案、提供していた。

また、呉服屋の広告という視点からみると、浮世絵に呉服屋が描かれている例を多く確認することができる。例えば国立国会図書館所蔵「東都名所 駿河町之図」(図 6) など江戸市中の様子を描いたものや、東京都立中央図書館特別文庫室所蔵「白木屋」(図 9) のように、美人を呉服屋の暖簾の前に立たせた様子を描いたものがこれにあたる³¹⁾。

また、呉服については、人々が新しい意匠や流行の技法を知るための出版物として小袖模様雛形本があるが、美人画もまた間接的に服飾を知るためのものであったと考えられる。美人画には、当時の流行の服飾が描かれており、中でも肉筆浮世絵は、模様や技法、生地質感まで緻密に描きだされており、服飾の細部まで知る

ことができる³²⁾。呉服屋と浮世絵の版元が、最新のファッションメディアとして生み出したものが、美人画であった。

5. まとめ

江戸時代は、社会基盤の確立、消費文化の成立により、新たな文化が創造された時代である。中でも歌舞伎、呉服、浮世絵は、町人文化として隆盛を遂げた。このような社会背景のもと、人々に商業目的上の情報を伝えるために生まれたのが広告である。江戸時代における広告の発展は目覚ましく、今日の広告にも近い広告戦略が展開されていた。

また、歌舞伎、呉服屋、浮世絵の三者は、人々のニーズにあったものを常に提供するという点で類似した性質を備えていたことから、広告において連携をとっていた。そのような背景のもと、歌舞伎と呉服屋が生み出したものが役者模様、役者色であり、歌舞伎と浮世絵が生み出したものが芝居絵、役者絵であり、呉服屋と浮世絵が生み出したものが美人画であったと考えられる(図 10)。

歌舞伎は人々の娯楽として欠かせないものであり、役者たちは女性たちの注目の的であった。そのため、歌舞伎、また役者は広告の発信者として最適であった。また、芝居絵・役者絵は、役者の姿を楽しむプロマイドであるとともに、歌舞伎の興行に関する広告でもあった。歌舞伎への関心の高まりとともに、芝居絵・役者絵の



図 9.「白木屋」三代 豊国画
(東京都立中央図書館特別文庫室所蔵)



図 10. まとめ

販売数は増加し、多くの愛好者により享受された。

芝居絵や役者絵の享受者の目的は、芝居の様子を知ることとともに、役者の姿を見ることであったが、役者が描かれていれば、様々な商品とともに描かれていても大いに人々の興味を引いたに違いない。これが、歌舞伎に限らず、薬や呉服といった異なる業種の広告の起用へと繋がったと考えられる。つまり、歌舞伎と芝居絵、役者絵、浮世絵は、広告の発信者、また広告塔としての位置を担っていたと結論づけられる。

6. 謝辞

本稿は、長崎巖教授（共立女子大学家政学部被服学科）の御指導の下、執筆致しました。心より感謝申し上げます。

本稿に用いた画像は、所蔵者の許可なく転載、複製することを禁じます。

註

- 江戸時代の広告を概観するものとしては、中田節子『広告で見る江戸時代』東京、角川書店、1999、2）歌舞伎と広告の関係性については、松宮三郎『江戸歌舞伎と広告』、東京、東峰書房 1973、3）浮世絵における広告については、藤澤茜『浮世絵が創った江戸文化』、東京、笹間書院、2013、p182-252 などが、それぞれ挙げられる。
- 阿国歌舞伎の後に生じた遊女歌舞伎は、遊女屋がはじめたものであったことから好色との繋がりが強いものであった。また、その後の若衆歌舞伎についても男色との関わりが深かったことから、幕府により禁止された。
- 歌舞伎への興味は、大人だけではなく、子どもも持つようになり双六などの玩具

類にも歌舞伎は取り入れられていった。

- 例えば、吉弥結びについては、『男色大鑑』に「その後ろつき、帯結びたる品物、又あるべき風儀（中略）吉弥これをうつして一丈二尺の大幅帯、くけめの角に鉛のしづをかけ、世に吉弥むすびとはじめて今にはやらしぬ。」とあり、人々の間で流行したことが分かる。（宗政五十緒、松田修、岬峻康隆『日本古典文学全集 39 井原西鶴集二』東京、小学館、1978、

注 5）表 1. 役者色・模様・帯結び・装身具（帽子）

名称	分類	役者
梅幸茶	色	初代尾上菊五郎
路考茶	色	二代目瀬川菊之丞
升花色	色	五代目市川團十郎
璃寛茶	色	二代目嵐吉三郎
芝罎茶	色	三代目中村歌右衛門
岩井茶	色	五代目岩井半四郎
高麗納戸	色	四代目松本幸四郎
小太夫鹿子	模様	二代目伊藤小太夫
三升	模様	初代市川團十郎
千弥染	模様	初代中村千弥
市松模様	模様	初代佐野川市松
小六染	模様	初代嵐小六
亀蔵小紋	模様	九代目市村羽左衛門
菊寿模様	模様	二代目瀬川菊之丞
仲蔵緋	模様	初代中村仲蔵
高麗屋格子	模様	四代目松本幸四郎
かまわぬ模様	模様	七代目市川團十郎
斧琴菊	模様	三代目尾上菊五郎
芝罎緋	模様	三代目中村歌右衛門
菊五郎格子	模様	三代目尾上菊五郎
三津五郎緋	模様	三代目坂東三津五郎
三ツ大緋	模様	三代目坂東三津五郎
半四郎鹿子	模様	五代目岩井半四郎
市村格子	模様	十二代目市村羽左衛門
かまいます模様	模様	初代市川男女蔵
観世水	模様	四代目澤村宗十郎

伝九郎染	模様	二代目市川伝九郎
花勝見	模様	三代目坂東三津五郎
六弥太格子	模様	八代目市川團十郎
路考結び	帯結び	二代目瀬川菊之丞
吉弥結び	帯結び	初代上村吉弥
水木結び	帯結び	初代水木辰之助
水木帽子	装身具	初代水木辰之助
沢之丞帽子	装身具	初代荻野沢之丞
瀬川帽子	装身具	初代瀬川菊之丞

p519-520)

- 5) 表 1. 役者色・模様・帯結び・装身具 (帽子)
- 6) 浮世絵の誕生について、小林忠は「浮世絵は、明暦三年 (1657) 一月の江戸大火、いわゆる振袖火事以降に誕生したと考えられている。」としている。(小林忠「なつかしき浮世絵ワールド」『別冊太陽 浮世絵師列伝』、東京、平凡社、2005、p3)
- 7) 浮世絵は、その制作手法から肉筆浮世絵と浮世絵版画のふたつに分類することができる。絵師が一作品ごとに手をかけ制作する肉筆浮世絵に対し、浮世絵版画は、絵師、彫師、摺師の分業制であり、一枚の原画から多くの絵画を制作することが可能である。結果として、浮世絵版画は肉筆画に比べ、安価になることから、多くの人々の絵画鑑賞を可能とした。また、浮世絵版画の制作過程について、折井は「浮世絵版画は絵師一人の手によって制作されたものではなく、出版社にあたる版元の統括のもと、絵師が絵を描き、職人である彫師・摺師が彫り・摺りを担当した、いわば分業の産物なのである。」とまとめている。(折井貴恵「浮世絵版画の出来まで - 錦絵は絵師、彫師、摺師の分業 -」『別冊太陽 浮世絵師列伝』、東京、平凡社、2005、p40)

- 8) 長崎巖『日本の美術 小袖からきものへ No.435』、東京、至文堂、2002、p43-58、p60-64、p67-69
- 9) 店舗に下げられた看板や暖簾などについては、東京国立博物館所蔵の「洛中洛外図屏風」などに確認することができる。
- 10) 商品や物事を広く知らせるために用いられるちらし、広告用の摺物。
- 11) 仙女香の広告がこれにあたる。浮世絵、小説をはじめとした出版物に広告を展開する他、画中の美人に仙女香の広告を使用させたり、購入者には役者の肉筆扇面を景物として配布するなど、多種多様に広告が展開された。(中田節子「広告で見る江戸時代」、東京、角川書店、1999、p15-16)
- 12) 松宮三郎「江戸歌舞伎と広告」、東京、東峰書房、1973、p117
- 13) 他にも、広告劇として「助六」が挙げられる。「助六」は、吉原遊郭を舞台にした広告劇といえる。吉原の实在の遊廊である三浦屋の店先に舞台が設定されていることから、三浦屋や遊女はもちろんのこと朝顔煎餅、山川白酒などの広告が芝居の中に配されている。このように、歌舞伎は人々が関心をもっていることを取り入れ、時にこれを広告としても利用していたと考えられる。
- 14) 個人蔵「御はみがき市川團十郎・岩井紫若」(中田節子「広告で見る江戸時代」東京、角川書店、1999、表紙、p89 に所載。)
- 15) 引札や看板などに記された。(公益財団法人三井文庫「史料が語る三井のあゆみ 越後屋から三井財閥」、東京、吉川弘文館、2015、p8-9)
- 16) 表 2. 呉服屋が描かれた浮世絵一覧。
- 17) 大丸呉服店は、越後屋と同様の広告戦略をとるとともに、芝居の引幕や景物品などの配布も行っていた。また、布子類を配布する慈善事業も積極的に行ってい

歌舞伎と芝居・役者絵における広告的役割

注) 16 表 2. 呉服屋が描かれた浮世絵一覧。

番号	作品名	画	所蔵	呉服屋
1	名所江戸百景するかてふ	歌川広重	国立国会図書館・江戸東京博物館・ボストン美術館	越後屋
2	東都名所 駿河町之図	歌川広重	国立国会図書館・江戸東京博物館	越後屋
3	富士三十六景 東都駿河町	歌川広重	国立国会図書館・早稲田大学演劇博物館・ホノルル美術館・ボストン美術館	越後屋
4	The Echigoya on New Year's Day 初春の越後屋	鳥居清長	ボストン美術館	越後屋
5	富嶽三十六景・江都駿河町三井見世略図	葛飾北斎	三井文庫・ボストン美術館	越後屋
6	江戸「駿河町越後屋呉服店」と美人初春図	国貞 (初)	公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京	越後屋
7	「江戸ノ富士十景之内」「するが亭」	歌川豊国 (3)	東京都立中央図書館特別文庫室	越後屋
8	駿河町越後屋之景	歌川豊国	江戸東京博物館	越後屋
9	The Mitsui Draper's Shop (Mitsui Gofuku-ten), from the series One Hundred Views of Osaka (Naniwa hyakkei) 「浪花百景 三井呉服店」	歌川国貞	ボストン美術館、東京都立中央図書館 特別文庫室	越後屋
10	浮絵駿河町呉服屋図	歌川豊春	三重県立博物館	越後屋
11	駿河町越後屋呉服店大浮絵	奥村政信	江戸東京博物館	越後屋
12	江戸名所四十八景 するが町一万延元 (1860) 年	歌川広重 (2)	中央区立京橋図書館	越後屋
13	Matsuya Draper's Shop (Matsuya gofukuten), from the series One Hundred Views of Osaka (Naniwa hyakkei) 「浪花百景 松屋呉服店」	芳瀧	ボストン美術館・大阪府立図書館	松屋
14	In Front of the Matsuzakaya Store 松坂屋の前	菊川英山	ボストン美術館	松坂屋
15	「東都見立 呉服屋八景」「松坂屋の帰帆」	歌川豊国 (初)	早稲田大学演劇博物館・大英博物館	松坂屋
16	「名所江戸百景」「下谷広小路」	歌川広重	国立国会図書館・早稲田大学演劇博物館・ボストン美術館	松坂屋
17	「名所江戸百景」「大伝馬町こふく店」	歌川広重	早稲田大学演劇博物館・東京国立博物館・大英博物館	大丸
18	江戸名所 大伝馬町大丸呉服店の図	歌川広重	山口県立萩美術館・浦上記念館	大丸
19	Women Walking by the Shirokiya	勝村春好	ボストン美術館	白木屋
20	白木屋店頭美人図	歌川国貞 (初)	静嘉堂文庫美術館	白木屋
21	白木屋	歌川豊国 (3)	東京都立中央図書館特別文庫室	白木屋
22	名所江戸百景 日本橋通一丁目略図	歌川広重	国立国会図書館・大英博物館	白木屋
23	江戸名所道化尽 通孝丁目祇園会	歌川広景	中央区立京橋図書館・国立国会図書館	白木屋
24	Women and Servant Passing the Hoteiya Dry Goods Store 布袋屋店先	歌川豊国 (初)	ボストン美術館	布袋屋
25	Prosperity at Owari-chô in the Eastern Capital (Tôto Owari-chô hanka no zu) A View of the Hoteiya Dry Goods Store 「東都尾張町繁花之図」 布袋屋	歌川広重 (初)	ボストン美術館	布袋屋
26	布袋や 冬物大安売り	英泉	公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京	布袋屋
27	恵比須屋	豊広	公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京	恵比須屋
28	The Dry Goods Store Ebisuya 恵比寿屋店先	歌川豊国 (初)	ボストン美術館	恵比須屋
29	ゑびすや店先	溪斎英泉	江戸東京博物館	恵比須屋
30	岩城升屋	菊川英山	公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 アド・ミュージアム東京	岩城升屋
31	Store Front of the Clothier Iwaki Masuya	歌川広重	Chazen Museum of Art・大英博物館	岩城升屋
32	岩城升屋店前之図	-	貨幣博物館	岩城升屋
33	「東都見立 呉服屋八景」「岩城升やの落雁」	歌川豊国 (初)	早稲田大学演劇博物館	岩城升屋

：絵師の世代数が明らかなものについては () で示した。

- た。(八巻俊雄「江戸期のブランディング」
[AD STUDIES]、公益財団法人吉田秀雄
記念事業財団、vol.3、winter、p13、
2003)
- 18) 白木屋は、越後屋、などと同様の広告戦
略をとるとともに、白木屋の名水が提供
されていた。
- 19) 「越後屋（現在の三越）が、1683 年に広
告効果測定をしている。越後屋はその後、
江戸時代にも 3 回の広告効果測定をし
ている。」(八巻俊雄「江戸期のブランデ
ィング」[AD STUDIES]、公益財団法人
吉田秀雄記念事業財団、vol.3、winter、
p9、2003)
- 20) 喜多川守貞「近世風俗志」、東京、魚住
書店、1970、p566
- 21) 「女重宝記」(元禄 5 年版) には、「時の
はやりもやうは大かた哥舞伎しばいより
出るなれば」(苗村常伯「翻刻 女重宝
記 男重宝記：江戸時代における家庭教
育資料の研究」、東京、日本私学教育研
究所、1985、p28) とあり、流行の模様
の大半が歌舞伎から発生したものであっ
たといえる。
- 22) 正徳五 (1715) 年、「坂東一幸曾我」に出
演した二代目市川團十郎の笠には「寿」
の文字が入っており、これが本町二丁目
の寿の字越後屋の広告であったとされて
いる。また、寿の字越後屋は、他にも引
札の配布など、広告展開を行っていた。
(松宮三郎「江戸歌舞伎と広告」東京、
東峰書房、1973、p118-121。編集部「江
戸期の広告 江戸時代の広告活動」[AD
STUDIES]、公益財団法人吉田秀雄記念
事業財団、vol.5、summer、p8、2003)
- 23) 表 3. 染織技法や服飾名を外題に入れた演
目。
- 24) 描かれている三人について、中田は「富
士の見える江戸名所にある越後屋の前に
いるのは、遊廊、商家、役者とそれぞれ
各界の代表的三人美人だろうか。」とし
ている。(中田節子「広告で見る江戸時代」
東京、角川書店、1999、p93)
- 25) 表 4. 役者が役者模様の服飾を着用して
いる例。
- 26) 「手前味噌」には、「上下は鶯茶、鶴びし
小紋、肌ぬぎの襦袢、緋ぢりめん、大丸
より取りよせしが、表だけで代金三両三
分だといふ故、あんまり高いもつと安い
のだといふ。(中略) 黄ばみはあれど夫
でよいと、買って仕立てさせ、着て出る。(中
略) 當人は元より懸りのものまで気をも
み、浅草中の呉服屋を探したれ」(括弧内、
下線部筆者) とあり、大丸や浅草中の呉
服屋とあり、呉服屋の名前を確認するこ
とができる。(日本演劇文献研究会編「手
前味噌」、東京、北光書房、昭和 19、
p516-517) また、「市川柏蔭舎事録」に
は「出入の呉服屋則駿河町越後や江早速
人を遣ひし、衣裳の相談に掛けり。」(括
弧内、下線部筆者) とあり、越後屋の名
前が見られる。(森銑三・北川博邦「続
日本随筆大成 9」、東京、吉川弘文館、
1980、p328)
- 27) 「有名な役者や人気役者が舞台衣裳に使
用した模様が観客の関心を引き、話題に
なると役者がこれを手ぬぐいやゆかたに
染めて配ったり、呉服商がきもの柄に写
して転売した。」(長崎巖「きものと裂の
ことば案内」東京、小学館、2005、p62)
- 28) 白木屋「白木屋三百年史」、白木屋、
1957、p217-218
- 29) 藤澤は、「作画には、「見立（上演前に作
画）」、「中見（芝居を実際に見てから作
画）」という二つの手法があり、新作の
芝居は主に「中見」で描くとされる。だ
が、実際に調査してみると、新作の芝居
でも「見立」で描かれる場合が多いこと
も確認される。つまりは、新しい芝居ほ

ど人々の話題となるように宣伝する必要があるということではないだろうか。」としている。(藤澤茜『浮世絵が創った江戸文化』、東京、笹間書院、2013、p191)

- 30) 藤澤は、「役者絵の制作は、歌舞伎と役者絵を愛好する享受者と、その欲求を満たす絵師、版元、そして芝居関係者という、四者の利害が合致して行われていたのである。」としている。(藤澤茜『浮世絵が創った江戸文化』、東京、笹間書院、

2013、p192)

- 31) 浮世絵に描かれた呉服屋については、前掲注) 16 が挙げられる。
- 32) 長崎巖「江戸時代町人女性のファッション-小袖の変遷と肉筆浮世絵における服飾描写」『肉筆浮世絵と江戸のファッション-町人女性の美意識』、ニューオータニ美術館、2009、p36-38

23) 表 3. 染織技法や服飾名を外題に入れた演目。

【江戸】

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
元禄9	1696	6	山村	おぐり袖につき	袖												
元禄10	1697	7	中村	待夜の姫小袖	小袖				寛保2	1742	1	中村	若楓口舌帯	帯			
元禄13	1700	11	山村	恋をつむむ花子の小袖	小袖						11	市村	振袖信田妻	振袖			
元禄14	1701	5	山村	大観冠二度珠取	大観冠						4	中村	若楓口舌帯	帯			
元禄15	1702	1	山村	祭礼鐘曾我	鐘				寛保3	1743	4	市村	■(しのめ)富士腰帯	帯			
元禄16	1703	7	中村	鐘保昌	鐘				寛保4	1744	4	中村	夏衣恋升賀	衣			
宝永2	1705	2	山村	けいせい吉長染			吉長染				1	中村	女帯廓景清	帯			
宝永4	1707	11	中村	周防内侍吾妻錦				錦	延享2	1745	1	市村	夏柳無常裾	裳・裾			
宝永5	1708	11	森田	女三美人妹背錦				錦			5	森田	恋衣相の山歌	衣			
宝永7	1710	5	中村	唐綾十二段				唐綾			8	中村	淀染三厘金		淀染		
享保元	1716		市村	鐘競奥州金	鐘				延享3	1746	1	森田	御所鹿子十二段		鹿子		
		11	森田	前九年鐘競	鐘						7	市村	恋衣我立袖	衣			
享保3	1718		市村	けいせい常陸帯	帯				延享4	1747	1	森田	江戸紫根元曾我			江戸紫	
		6	市村	かぶと	かぶと						1	中村	飾腰鐘曾我	鐘			
享保4	1719	7?	森田	日本振袖の始	振袖						1	市村	堤八町当世羽織	羽織			
		5?	森田	お染久松/心中袂/白紋	袂	絞					4	市村	敵討卯花襲	花襲			
享保5	1720	8	森田	大観冠	大観冠				寛延元	1748	7	中村	淀染三厘金		淀染		
		1	森田	初■(もみじ)鐘曾我	鐘						7	森田	染分■(たづな)		染分		
		8	中村	花毛氈二丁腰帯	帯						8	市村	三代染問答		三代染		
享保8	1723	1	中村	帯曳男結	帯						9	森田	鐘袖■(おとめ)道行			鐘袖	
享保11	1726	3?	中村	灸すへ岩ほの曇夜着	夜着				寛延2	1749	2	市村	綾衣熊谷桜	衣			
			中村	紅染九代狩衣	狩衣	紅染					2	市村	染分宮古錦		染分	錦	
享保15	1730	7?	市村	心中道行白小袖	小袖						11	市村	三重襲袍船	三重襲			
		7?	市村	恋慕の闇黒小袖道行	小袖						1	市村	さかおもだか鐘兜	鐘・兜			
享保16	1731		中村	首途烏帽子下地	烏帽子				寛延3	1750	3?	市村	たがそであいの山			たがそで	
		2	市村	三つかさね 藤波笠	笠						5	市村	名所のぬり笠	笠			
享保19	1734	1	中村	小袖もやう	小袖		もやう				7	市村	三重襲袍船	三重襲			
		11	中村	京鹿子雪中珠取		鹿子					11	森田	初雪伶人袖	袖			
享保20	1735	3	中村	鐘競故郷錦	鐘						1	森田	滝桜浅間紋		紋		
享保21	1736	1	中村	遊君鐘曾我	鐘						1	森田	峰雲残霞帯	帯			
		3	河原崎	満浴衣地主桜	浴衣				宝暦元 (寛延4)	1751	1	森田	露時雨雲浪	裳			
元文2	1737		土佐	茜染野中の隠井		茜染					2	中村	伊豆小袖商売鐘	小袖			
元文3	1738		河原崎	足利染泰平手綱		足利染					5	中村	恋女房染分手綱		染分		
		1	河原崎	むけんのかね石の帯	帯						7	中村	恋女房染分手綱		染分		
元文4	1739	5?	河原崎	産衣女将門	産衣						11	中村	本領鉢木染		染		
		11	中村	都染置鉢木		都染			宝暦3	1753	2	中村	京鹿子娘道成寺道行		鹿子		
		7	中村	衣々古舞錦	衣々						11	市村	冠競和黒主	冠			
元文5	1740	7	河原崎	常陸帯■(ていじょ)鐘	帯				宝暦4	1754	2	中村	江戸鹿子男道成寺		鹿子		
		1	中村	摩の鐘				錦			4	市村	我衣手連囃	衣			
寛保元 (元文6)	1741	2	中村	墨染二葉桜		墨染			宝暦5	1755	1	市村	染■(かたばら)勘介島	かたばら?	染		
		9	市村	恋衣我立袖	衣						6	中村	江戸鹿子松竹梅		鹿子		

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
宝暦 5	1755	11	森田	大伴黒主東帯鑑	東帯				明和 8	1771	8	市村	けいせい名越帯	帯			
宝暦 6	1756	3	中村	三幸映小袖	小袖				安永元 (明和 9)	1772	2	市村	振袖着更衣曾我	振袖			
		11	中村	得門装束履	装束						4	森田	恋女房染分手綱		染分		
		2	市村	染手綱初午曾我		染					8	森田	けいせい紅葉襦	襦			
宝暦 7	1757	5	市村	染手綱初午曾我		染					9	森田	けいせい紅葉襦	襦			
		7	市村	児源氏鑑襲	鑑						11	中村	大鶴海老鯛縁塚	鑑			
		4	中村	染つくし		染					11	森田	雪花縁狩衣	狩衣			
宝暦 8	1758	9	市村	振袂引手綱	袂				安永 2	1773	4	森田	小袖蔵いろは配	小袖			
		11	市村	花吹雪富士簪笠	笠				安永 3	1774	1	中村	御読染曾我雛形		御読染		
		1	中村	鶯宿梅妻戸帯引	帯						1	中村	五衣柳の品	五衣			
宝暦 9	1759	3	森田	道行 乱髪所縁加賀笠	笠						1	市村	結鹿子伊達染曾我		鹿子・ 伊達染		
		6	市村	立田川死霊小袖かけ合	小袖						3	市村	花信風折鳥帽子	鳥帽子			
		9	市村	小袖物狂之段	小袖						3	市村	結鹿子伊達染曾我		鹿子・ 伊達染		
		11	中村	雪花芳野帯	帯						4	中村	御読染曾我雛形		御読染		
		11	市村	阿国染出世舞台		染					5	中村	恋女房染分手綱		染分		
			森田	大塔宮鑑襲	鑑						11	中村	紅葉染 (くさかり) 笛		染		
宝暦 10	1760		森田	恋女房染分手綱		染分					11	市村	風流錦襦袢			襦袢・錦	
		6	市村	鎌倉風真田笠紐	笠				安永 4	1775	9	森田	袖模様四季色歌	袖			
		11	市村	刻鳥帽子照葉盃	鳥帽子						1	森田	神託千早の振袖	振袖			
宝暦 11	1761	1	市村	江戸紫根元曾我			江戸紫		安永 5	1776	1	市村	袖梅 扇の灸すへ	袖			
		3	市村	帯 (ひき) 一粒奴	帯						2	市村	江戸染里便		江戸染		
		5	市村	三重帯裾野の模様	帯						6	森田	恋女房染分手綱		染分		
		8	市村	袖の香	袖						6	森田	茜染浮名伊達衫	衫	茜染		
			森田	題昔東山染		東山染					7	森田	桔梗染女占		桔梗染		
宝暦 12	1762	2	森田	離袖花の相笠	笠			離袖	安永 6	1777	8	森田	桔梗染女占		桔梗染		
		2	森田	江戸鹿子桜鑑入		鹿子					9	森田	桔梗染女占		桔梗染		
		4	市村	華笠おとり	笠			綿			11	森田	袖傘振手段	袖			
		8	中村	所縁紋加賀着綿							1	森田	江戸結小袖曾我	小袖			
宝暦 13	1763	2	市村	帯引小蝶香	帯				安永 7	1778	2	森田	江戸結小袖曾我	小袖			
		5	中村	峰雲墨墨染		墨染					3	森田	江戸結小袖曾我	小袖			
		9	中村	(いわた) 帯紅葉襲	帯						3	中村	鐘掛花振袖	振袖			
		11	森田	寒梅扇乱咲	扇						5	中村	鐘掛花振袖	振袖			
		2	森田	離袖粧曾我				離袖	安永 8	1779	9	中村	恋女房染分手綱		染分		
		3	中村	末若葉卵月染衣	染衣						11	市村	勝色衣履英	衣			
		3	市村	江戸染曾我雛形		江戸染					2	市村	文紙子屋やとくらん	紙子			
		4	市村	江戸染曾我雛形		江戸染					3	中村	茜染野中の隠井		茜染		
		4	市村	振袖東海道	振袖				安永 9	1780	3	森田	壇浦兜軍記	兜			
		4	市村	留袖浅間坂	留袖						4	森田	壇浦兜軍記	兜			
		5	市村	恋女房染分手綱		染分					4	市村	女狐縁花笠	笠			
		6	中村	大塔宮鑑襲	鑑						4	市村	花似振袖傘	振袖			
		7	市村	恋女房染分手綱		染分			天明元 (安永 10)	1781	5	市村	江戸菫浪花帷子	帷子			
		8	中村	袖の露	袖						6	中村	八百屋お七恋江戸染		江戸染		
		11	市村	めりやす袖時雨	袖						8	市村	恋女房染分手綱		染分		
			森田	敵討つゝれの錦				錦			11	中村	信夫石恋御所染		御所染		
明和 2	1765	11	中村	冬至梅離袖丹前				離袖	安永 10	1782	1	市村	茜色江戸紫		江戸紫		
		11	森田	染分鞍馬鑑		染分					3	市村	女鳴神瀬川帽子	帽子			
			中村	恋女房染分手綱		染分					5	市村	女伊達浪花帷子	帷子			
			中村	袖柳名所塚	袖						4	中村	千歳扇大振袖	大振袖			
明和 3	1766	7	中村	八百屋お七恋江戸染		江戸染			天明元 (安永 10)	1781	5	中村	千歳扇大振袖	大振袖			
		7	中村	恋女房染分手綱		染分					5	中村	恋女房染分手綱		染分		
			中村	衣かつき思破車	衣						2	市村	隅田川柳伊達衣	衣			
			中村	太平記賤振袖	振袖						3	市村	隅田川柳伊達衣	衣			
明和 4	1767	8	中村	振袖京早咲	振袖				天明 2	1782	3	市村	隅田川柳伊達衣	衣			
		11	市村	伊達模様雪霜妻		伊達模様					3	市村	紅粉離園亀山染	亀山染			
			森田	春の袖	袖						7	中村	伊達染仕形講釈	伊達染			
			森田	今昔東山染		東山染					9	中村	伊達染仕形講釈	伊達染			
明和 5	1768	3	市村	春の袖	袖				天明 3	1783	11	中村	五代源氏貫振袖	振袖			
		9?	森田	今昔東山染		東山染					11	市村	袖引都移面	袖			
		11	中村	紅葉雲錦夜着	夜着						8	市村	けいせい羅衣辻	羅衣			
		11	市村	紅葉雲錦夜着	夜着						8	市村	東産子娘道成寺		鹿子		
明和 6	1769	11	市村	色鹿子紅葉狩衣	狩衣	鹿子			天明 4	1784	4	中村	権重袴羅衣	袴・羅衣			
		11	森田	都染妓王被		都染					5	森田	権重袴			錦	
		11	森田	顔見勢雲襦袢取	襦袢												
		2	市村	主膳十重襦	襦												
明和 7	1770	4	中村	模元江戸紫			江戸紫										
		7	森田	銀面舟七野東帯	東帯												
明和 8	1771	7	中村	田村慶七重襲	七重襲												

歌舞伎と芝居・役者絵における広告的役割

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
天明4	1784	7	森田	恋女房染分手綱		染分			寛政11	1799	3	森田	伊達衣裳曲輪好	伊達衣裳			
		9	森田	離袖二錦繪				離袖			4	森田	京鹿子娘道成寺		鹿子		
		11	中村	真田帯聞の組打	帯						4	市村	拾小袖血汐染色	拾小袖			
天明5	1785	3	桐	江戸仕立団七編			団七編		寛政12	1800	5	森田	京鹿子娘道成寺		鹿子		
		4	桐	江戸仕立団七編			団七編				9	市村	江戸紫男鑑		江戸紫		
		9	中村	織合襷襦袢				錦			1	中村	帯■(ひき)花鹿小林	帯			
天明6	1786	11	中村	雪鳩竹振袖源氏	振袖				寛政12	1800	3	中村	意計高尾伊達染		伊達染		
		2	森田	振袖染分道成寺	振袖	染分					11	河原崎	里神楽帽子初花	帽子			
		11	中村	袖振雪芳野拾遺	袖						11	河原崎	珍敷雪振袖	振袖			
天明7	1787	11	森田	雪容形麻衣	麻衣				享和元 (寛政13)	1801	3	市村	桃桜離世帯	帯			
		2	森田	京鹿子娘道成寺道行				鹿子			5	河原崎	草花吉阿染		吉岡染		
		2	森田	京鹿子娘道成寺				鹿子			5	河原崎	田舎染梅裳		田舎染		
天明7	1787	2	中村	嬌女柳帯■(ひき)	帯				享和2	1802	9	中村	振袖隅田川	振袖			
		3	桐	七襲東雛形	七襲						11	中村	孔雀染■(しんぞう)卸		孔雀染		
		4	中村	乱咲花色衣	衣						11	市村	紅葉傘時雨振袖	振袖			
寛政元 (天明9)	1789	5	桐	恋女房染分手綱		染分			享和2	1802	11	河原崎	巫の鈴振袖	振袖			
		1	市村	袖の梅	袖						3	河原崎	結微鹿子道成寺		鹿子		
		1	森田	壇浦兜軍記	兜						4	河原崎	結微鹿子道成寺		鹿子		
寛政2	1790	1	中村	春錦伊達染曾我		伊達染			享和2	1802	4	中村	想妻拾小袖	拾小袖			
		2	中村	春錦伊達染曾我		伊達染					5	中村	夏祭団七編			団七編	
		3	中村	春錦伊達染曾我		伊達染					6	中村	恋女房染分手綱		染分		
寛政3	1791	4	中村	春錦伊達染曾我		伊達染			享和3	1803	11	中村	襷かさね	襷			
		5	中村	春錦伊達染曾我		伊達染					2	中村	伊達染仕形講釈		伊達染		
		5	中村	伊達染曾我まつり		伊達染					2	市村	江戸紫由縁十徳		江戸紫		
寛政4	1792	1	中村	うわ帯	帯				文化元 (享和4)	1804	4	中村	仲藏緒博多今織	博多今織	仲藏緒		
		2	市村	樓裏■(ほだしの)振袖	振袖						4	中村	仲藏緒博多今織	博多今織	仲藏緒		
		6	河原崎	女達高麗屋経緯			高麗屋経緯				4	中村	錦車縫綴印の花		縫		
寛政4	1792	7	河原崎	女達高麗屋経緯			高麗屋経緯		文化2	1805	11	中村	よしや男抱着綿	抱			
		8	河原崎	女達高麗屋経緯			高麗屋経緯				3	中村	花笠鹿子道成寺		鹿子		
		9	河原崎	女達高麗屋経緯			高麗屋経緯				3	河原崎	恋衣佛花玉		衣		
寛政5	1793	3	市村	三重帯花の潤色	帯		潤色		文化3	1806	5	中村	敵討■(しやうぶの)組帯	帯			
		4	河原崎	千早振袖の梅香	振袖						5	中村	花笠鹿子道成寺	帯	鹿子		
		4	河原崎	杜若七重の染衣	七重の 染衣						5	守田	袖屏風色印	袖			
寛政6	1794	4	河原崎	杜若七重の染衣	七重の 染衣				文化4	1807	11	河原崎	雪振袖山姥	振袖			
		2	中村	文紙衣染不二屋	紙衣						2	中村	鳥帽子紐解寝夜	鳥帽子			
		9	河原崎	江戸紫娘道成寺		江戸紫					3	河原崎	京鹿子娘道成寺		鹿子		
寛政7	1795	1	桐	対面織物尽のつらね				織物	文化5	1808	4	中村	袖の海	袖			
		5	河原崎	恋女房染分手綱		染分					4	河原崎	壇浦兜軍記	兜			
		11	河原崎	折能恋掛鳥帽子	鳥帽子						9	市村	織合襷襦袢		錦		
寛政8	1796	2	桐	八百屋お七恋江戸染		江戸染			文化6	1809	3	中村	助六桜の二重帯	帯			
		4	桐	涼浴衣	浴衣						3	市村	花三升太平柱建		三升		
		5	桐	五月帯緑の短夜	帯						4	市村	道行菜種裳	裳			
寛政9	1797	6	桐	藍結梗厘金小紋		小紋			文化7	1810	5	市村	京鹿子娘道成寺		鹿子		
		7	都	八朔白無垢	白無垢						11	中村	道行風流花振袖	振袖			
		9	都	望小袖物狂	小袖						1	市村	解初鹿帯曳	帯			
寛政10	1798	2	都	帯文桂川水	帯				文化8	1811	1	河原崎	染模様鉢背門松		染	染模様	
		2	都	京鹿子娘道成寺		鹿子					6	中村	染模様鉢背門松		染	染模様	
		3	都	京鹿子娘道成寺		鹿子					6	森田	樓■(からげ)恋販女	樓			
寛政10	1798	3	都	京鹿子娘道成寺		鹿子			文化8	1811	9	中村	恋女房染分手綱		染分		
		3	河原崎	亀屋結裏山蓑			結				11	市村	色紅葉由縁袴衣	袴衣			
		4	都	京鹿子娘道成寺		鹿子					3	森田	其往昔恋江戸染		江戸染		
寛政10	1798	5	桐	壇浦兜軍記	兜				文化8	1811	6	市村	日本振袖始	振袖			
		4	桐	江戸紫娘道成寺		江戸紫					6	市村	御祭礼端午帷子	帷子			
		4	桐	道行 咲初花振袖	振袖						7	中村	恋女房染分手綱		染分		
寛政10	1798	5	桐	江戸紫娘道成寺		江戸紫			文化8	1811	11	河原崎	初深雪花の袖笠	袖			
		5	桐	道行 咲初花振袖	振袖						1	中村	艶容姿名物鹿子		鹿子		
		6	都	大塔宮囃子	囃子						4	中村	袖濡而須磨乱藻	袖			
寛政10	1798	9	都	忍夫摺形見狩衣	狩衣				文化8	1811	4	市村	沢紫鹿子道成寺		鹿子	沢紫	
		1	桐	着衣始小袖曾我	小袖						6	市村	関原墨染袴		墨染		
		3	桐	四つの袖	袖						7	市村	関原墨染袴		墨染		
寛政10	1798	3	桐	道行菜種裳	裳				文化8	1811	5	市村	御註文仕入黄染		黄染		
		5	桐	着衣始小袖曾我	小袖						7	市村	謎帯一寸徳兵衛	帯			
		7	森田	織合襷襦袢				錦			8	森田	縫習帯屋信濃屋	帯		帯屋	
寛政10	1798	9	森田	振袖隅田川	振袖				文化8	1811	10	森田	江戸紫流石男気			江戸紫	

共立女子大学家政学部紀要 第 62 号 (2016)

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
文化 9	1812	3	中村	道行摺振袖	振袖				文政 5	1822	2	市村	壇浦兜軍記	兜			
		3	中村	似紫鹿子道成寺		鹿子					3	市村	壇浦兜軍記	兜			
		3	市村	染花江戸伊達染		伊達染					3	中村	染分惹彩色		染分		
		5	市村	綾子帯屋	綾子帯			帯屋			6	市村	出来合懐古浴衣	浴衣			
		4	中村	道行摺振袖	振袖						11	森田	男帯	帯			
		4	中村	亀山染袷切講釈		亀山染			文政 6	1823	3	中村	御曲輪花伊達染		伊達染		
		4	中村	紫鹿子道成寺		鹿子					3	中村	京鹿子娘道成寺		鹿子		
		7	中村	道行摺振袖	振袖						9	中村	御注文高麗屋結			高麗屋結	
		7	森田	恋女房染分手綱		染分					6	中村	江戸仕入団七織			団七織	
		8	森田	其往昔恋江戸染		江戸染			文政 7	1824	6	中村	道行辻花染		辻花染		
文化 10	1813	10	結城	江戸紫流石男気			江戸紫				6	河原崎	伊達浴衣菊染分	浴衣	染分		
		1	中村	腰取霞帯曳	帯						7	中村	大塔宮囃子	簾			
		1	森田	例服曾我伊達染		伊達染			文政 8	1825	7	市村	道行浮名の簾染		染		
		2	中村	沢紫鹿子道成寺		鹿子					8	市村	仕入物連理帯屋	帯			帯屋
		6	市村	尾上松緑洗濯話				洗濯			5	河原崎	大塔宮囃子	簾			
		8	市村	尾上松緑洗濯話				洗濯			5	河原崎	恋女房染分手綱		染分		
文化 11	1814	9	中村	御名残尾花留袖	留袖				文政 9	1826	5	河原崎	織合襷袴錦		織		錦
		3	市村	隅田川花御所染		染					6	中村	紫女伊達染		伊達染		
		5	市村	白服の掛屋入	白服						8	河原崎	道行瀬川帽	瀬川帽			
		6	森田	恋女房染分手綱		染分					9	河原崎	織合襷袴錦		織		錦
		7	市村	新織博多織入船		新織	織		文政 10	1827	3	中村	鹿子かさね小襦両面	襦	鹿子		
		11	中村	恋女房染分手綱		染分					7	中村	恋女房染分手綱		染分		
文化 12	1815	1	中村	伊達彩曾我雛形		伊達彩			天保元 (文政 13)	1830	1	市村	愛典野記念袴衣	袴衣			
		1	中村	梅蘭露帯曳	帯						4	河原崎	蝶鶴比翼の帯引	帯			
		3	市村	紙衣男草履長刀	紙衣・草履						8	市村	新織入帯屋注文	帯	新織		帯屋
		5	中村	句兄弟葛藤帷子	帷子						9	市村	新織入帯屋注文	帯	新織		帯屋
		7	河原崎	鹿子不器用娘	帷子						3	市村	染分惹彩色		染分	惹彩色	
文化 13	1816	7	河原崎	霞帯地安売	帯				天保 2	1831	3	中村	恋女房染分手綱		染分		
		8	河原崎	霞帯地安売	帯						6	市村	夏浴衣国字小紋	浴衣		小紋	
		9	中村	織合襷袴錦				錦			11	市村	江戸好菊伊達染		伊達染		
		3	中村	京鹿子娘道成寺		鹿子			天保 3	1832	1	河原崎	京鹿子娘道成寺		鹿子		
		3	市村	京鹿子娘道成寺		鹿子					2	市村	道行振袖香	振袖			
文化 14	1817	3	河原崎	局岩藤比翼袴	袴						2	市村	結習鹿子道成寺		鹿子		
		3	河原崎	江戸紫手向七字			江戸紫				3	市村	隅田川花御所染		御所染		
		4	市村	京鹿子娘道成寺		鹿子					4	市村	隅田川花御所染		御所染		
		4	河原崎	局岩藤比翼袴	袴						5	市村	隅田川花御所染		御所染		
		5	河原崎	時織襷袴錦		織		錦			5	河原崎	染花葛藤の彩色		彩色		
文政元 (文化 15)	1818	9	中村	棲重菊菊月	襦				天保 4	1833	1	河原崎	其往昔恋江戸染		江戸染		
		1	中村	小袖乞忍縫字入	小袖	縫					1	市村	壇浦兜軍記	兜			
		1	河原崎	袴衣花此頃	袴衣						3	市村	壇浦兜軍記	兜			
		10	河原崎	恋女房染分手綱		染分					5	河原崎	玉藻前御園公服	公服			
		2	都	道行 帯文雪空解	帯						5	河原崎	新兵衛葛藤帷子	帷子			
文政 2	1819	3	都	小袖物くるひ	小袖				天保 5	1834	5	中村	三銀寄御存地染		染		
		3	都	菊見の振袖	振袖						9	中村	乱拍子腰振袖	振袖			
		5	中村	仕入染金五紋		染					5	市村	織合襷袴錦		織		錦
		6	森田	東染栄久松		東染					6	市村	棲重艶付町	襦			
		9	中村	花三升菊時			三升・菊時				9	市村	かさね菊絹川染		染		
文政 3	1820	10	河原崎	恋女房染分手綱		染分			天保 6	1835	5	森田	鯉帯色織分	鯉帯	織		
		1	中村	曾我鶴妹背組帯	帯						7	市村	色羽二重雛形染		染		羽二重
		5	玉川	梅柳若葉加賀染		加賀染					6	中村	壇浦兜軍記	兜			
		6	河原崎	裏模様菊伊達染		伊達染	裏模様				10	中村	染模様袴袴門松		染	染模様	
		7	河原崎	振袖隅田川	振袖						11	市村	袖濡而須磨乱藻	袖			
文政 4	1821	1	中村	仕入曾我雁金染		雁金染			天保 7	1836	3	森田	壇浦兜軍記	兜			
		1	河原崎	帯屋島履礼	帯			帯屋			9	市村	棲模様紫袴		袴模様		
		2	河原崎	其往昔恋江戸染		江戸染					9	森田	名護屋帯雲福妻	名護屋帯			
		3	中村	道行瀬川帽	瀬川帽						11	中村	帯文桂川水	帯			
		3	玉川	桜舞台伊達染		伊達染			天保 8	1837	4	森田	初拾屋五紋	拾			
文政 5	1822	3	河原崎	隅田川花御所染		御所染					11	河原崎	神楽唄千早振袖	振袖			
		4	河原崎	壇浦兜軍記		兜					10	市村	江戸織連理帯屋	帯	江戸織		帯屋
		7	中村	棲模様古手返			棲模様				11	市村	江戸織連理帯屋	帯	江戸織		帯屋
		3	河原崎	桜三升娘道成寺			三升		天保 9	1838	1	中村	帯文川傍柳	帯			
		7	河原崎	玉藻前御園公服	公服						3	市村	内裡模様源氏紫			源氏紫	
文政 5	1822	8	中村	仇縁結帯屋	帯			帯屋			4	河原崎	壇浦兜軍記	兜			
		2	河原崎	助六情の二重帯	帯						2	中村	富士屏風巻帯	帯			

歌舞伎と芝居・役者絵における広告的役割

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
天保 10	1839	3	市村	京鹿子娘道成寺		鹿子			嘉永 5	1852	2	河原崎	恋衣羅金染	衣	羅金染		
		8	河原崎	其往昔恋江戸染		江戸染					3	市村	京鹿子娘道成寺		鹿子		
		11	中村	壇浦兜軍記	兜						3	市村	重襷閣の小夜衣	衣			
天保 11	1840	3	河原崎	御注文端子帯屋	端子帯			帯屋			5	中村	重襷閣の小夜衣	襷			
		4	市村	恋女房染分手綱	衣	染分					5	市村	重襷閣の小夜衣	衣			
		6	中村	遠浴衣一対色揚	浴衣	色揚					9	市村	重襷閣小袖宵宮戯	小袖			
		11	市村	両花道振袖	振袖				嘉永 6	1853	1	中村	華郎三升伊達染		伊達染	三升	
天保 12	1841	4	中村	堺開帳三升花衣	衣				安政元 (嘉永 7)	1854	5	市村	壇浦兜軍記	兜	染分		
		1	市村	両花道振袖	振袖						6	中村	壇浦兜軍記	兜			
		4	河原崎	恋女房染分手綱		染分			安政 2	1855	9	河原崎	蝶龜山染		龜山染		
天保 13	1842	6	河原崎	彩袴桜花袴	袴				安政 3	1856	9	市村	心中玉雲白小袖	小袖			
		11	市村	増補兜軍記	兜						10	市村	丹前の名古屋帯	名古屋帯			
天保 14	1843	9	河原崎	松此屋狩衣	狩衣				安政 4	1857	1	市村	鼠小紋東君新形			鼠小紋	
		10	河原崎	此屋松狩衣	狩衣						3	市村	鼠小紋東君新形			鼠小紋	
		11	河原崎	種軍法振袖武蔵	振袖						8	森田	壇浦兜軍記	兜			
		11	河原崎	江戸紫男道成寺			江戸紫				2	中村	晴模様の染衣更着	染衣		晴模様	
弘化元 (天保 15)	1844	9	中村	玉藻前雲公服	公服				安政 5	1858	3	市村	解帶銭湯河	帯			
		2	市村	岩井太帯如月	帯						10	中村	日本振袖始	振袖			
弘化 2	1845	2	河原崎	御注文端子帯屋	端子帯			帯屋			10	中村	染分紅地江戸襷	江戸襷	染分		
		3	市村	京鹿子娘道成寺		鹿子					11	守田	比翼紋艶江戸染		江戸染		
		11	中村	御注文妹背組帯	帯				安政 6	1859	2	市村	小袖曾我新色袴	小袖	袴		
弘化 3	1846	3	中村	深窓の振袖	振袖						4	市村	世界拾遺全小紋	袴		小紋	
		4	河原崎	壇浦兜軍記	兜						7	中村	麒麟浮世江戸襷	江戸襷			
		9	河原崎	松竹梅彩加賀染		加賀染					9	市村	日月星夜織分		昼夜織		
弘化 4	1847	8	中村	壇浦兜軍記	兜				万延元 (安政 7)	1860	1	中村	仇結離解帯	帯			
嘉永元 (弘化 5)	1848	1	中村	襷二重梅由兵衛	襷						3	中村	恋女房染分手綱		染分		
		3	河原崎	鎌倉山笠御所染		御所染			文久元 (万延 2)	1861	8	守田	打揃米振袖	振袖			
		1	中村	其往昔恋江戸染		江戸染					1	中村	佐禁曾我館染		染		
嘉永 2	1849	4	中村	沢紫色水上			沢紫		文久 2	1862	9	市村	江戸鹿子二人道成寺		鹿子		
		11	中村	袖しぐれ	袖						11	中村	曜忍染浴衣	浴衣			
嘉永 3	1850	9	河原崎	追善兜軍記	兜				文久 3	1863	2	市村	曾我新色袴		御所染		
		1	市村	黄八丈三筋登橋			黄八丈、葛				5	中村	葛蒲浴衣江戸子鑑	浴衣			
嘉永 4	1851	4	中村	彩紫藤恋染浴衣	浴衣				應応元 (万治 2)	1865	6	守田	襷解解の絹川	襷			
		5	市村	恋模様振袖袷	振袖						8	中村	上総地小紋単地			小紋	木綿
		8	市村	沢紫色水上			沢紫		應応 2	1866	4	中村	魁花岩尾伊達染		伊達染		
		9	河原崎	恋女房染分手綱		染分			應応 3	1867	4	守田	九字成帯錦新模	帯			
嘉永 5	1852	1	河原崎	恋衣羅金染	衣	羅金染											
		1	市村	袖机帳簪別朝妻	袖												

【京都】

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
元禄 3	1690	春		けいせい袖の海	袖				享保 13	1728	2		三の祭文真紅ノ染糸				糸
元禄 8	1695	7		曾我たゆふ染		たゆふ染			享保 14	1729			節間(座)掲布染		染		
元禄 15	1702	11		嫁入小袖	小袖				享保 15	1730	6		社士模様重帷子	帷子		社士模様	
宝永 3	1706	11		助六心中紙子姿	紙子				享保 18	1733	4	南西	刈髪卯花衣	衣			
宝永 4	1707	7		風りうのまいの袖しやんとした立すかた	袖				元文 2	1737	11		子数盛血汐ノ装束	装束			
宝永 7	1710	11		雛袖梅桜松				雛袖	元文 4	1739	7		四天王寺女舞衣	舞衣			
正徳 2	1712	2		傾城錦の腹帯	帯				元文 5	1740	9		大職冠西海明鑑	大職冠			
享保元	1716			けいせい錦ノ産衣	産衣			錦	寛保元 (元文 6)	1741	2		伊達小袖裾野ノ桜	小袖			
享保 3	1718			日本振袖始	振袖				寛保 2	1742	1		徒う髪双腹帯	帯			
		12		子鹿之胎帯	帯				寛保 3	1743	3	南	振袖女雷師	振袖			
享保 4	1719			飾磨掲布染		染					5	南	潤色江戸紫			江戸紫	
享保 7	1722			けいせい染色山		染色			延享元 (寛保 4)	1744	7	南	けいせい比翼兜	兜			
		11		男模様二枚離形			男模様				11	北西	博多織妹背唐錦		博多織		
享保 8	1723	7		大塔宮囃子	鐘				延享 2	1745	1	北西	けいせい吉岡染		吉岡染		
享保 10	1725	12		河州石川染		石川染					4	南	囃小袖卅三年忌	小袖			
享保 11	1726	12		大塔宮囃子	鐘						5	南	離袖女葉平				離袖
享保 12	1726			大職染呉服量簡		大職染		呉服量簡									

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
寛延元	1748	1	北西	衣紋坂男鑑	衣												
宝暦元	1751	11	南西	都鹿児旭錦			鹿児	錦									
宝暦3	1753	10	北西	恋女房染分手綱			染分		寛政8	1796	5	北東	艶鏡石川染			石川染	
宝暦5	1755	4	南	湊川形見鑑	鑑						6	北東	艶鏡石川染			石川染	
宝暦6	1756	7	北西	今織越後縮			今織	越後縮			6	北東	其儘古服袴	袴			
宝暦7	1757	5	南	浪花染祭礼雛形			浪速染				6	北東	三度笠	笠			
宝暦8	1758	4	北西	振袖現在道成寺	振袖				寛政9	1797	7	北(南)	染模様袴背門松			染	染模様
宝暦9	1759	4	北	袷服難波紋	袷服		難波紋				8	南	傾城博多織			博多織	
宝暦10	1760	2	南	恋衣逢夜の口舌	衣						10	北	棲重勘助縮			勘助縮	
宝暦11	1761	4	北	五月帯皆種	帯						1	南	けいせい桜大紋日	大紋			
宝暦12	1762			道場大門口鑑袷	鑑				寛政10	1798	4	北東	大塔宮囃子	鑑			
		春	錦天神	恋女房染分手綱			染分				4	北東	織合襦袢錦			織	錦
宝暦13	1763	1	南	都鹿子娘道成寺			鹿子				11	北野下 の森	織合襦袢錦			織	錦
		3	北	友伴染	友伴染				寛政11	1799	6	北東	菜種雲	雲			
明和元	1764	4	京羽二重娘気質				羽二重				7	京橋裏路	伊達染袴燕都袴	燕都袴			
		9	染分手綱				染分				7	六角堂	けいせい博多織			博多織	
明和2	1765	6	北	京羽二重娘気質			羽二重				7	六角堂	置産今織■(じょうふ)	今織		じょうふ	
		10	南	調色江戸紫			江戸紫				3	南	伊達染袴容儀			伊達染	
明和3	1766	1	南	道行千ひきのふり袖	ふり袖				寛政12	1800	3	北	伊達染袴容儀			伊達染	
		11	南	雪朝大紋日都襟	大紋						4	京橋裏路	太平記囃子	鑑			
明和4	1767	10	北野下	大門口鑑	鑑						4	南	京鹿子娘道成寺			鹿子	
明和5	1768	5	南	染模様袴背門松			染	染模様			8	北	太平記囃子	鑑			
		4	南	振袖天神記	振袖				寛政年間か		10	北	御国名物花菅笠	笠			
明和6	1769	8	南	源平二葉錦				錦	享和元 (寛政13)	1801	3	北東	染模様袴背門松			染	染模様
		8	北	調色江戸紫			江戸紫				4	南	京羽二重新雛形				羽二重
明和7	1770	6	道場堀 谷芝居	夏衣裳履染	衣裳	履染			享和2	1802	6	北	織合襦袢錦			織	錦
明和8	1771	4	北西	小袖蔵いろは配	小袖						10	南	染模様袴背門松			染	染模様
安永元	1772	3	南	恋女房染分手綱			染分		享和3	1803	1	京橋裏路	けいせい桃山錦				錦
安永2	1773	5	南	倭漢織入鑑	鑑			錦			3	南	持丸長者金并剣				斧
		5	南	雁金染			雁金染		文化元 (享和4)	1804	5	北	若葉衣緑染山姥	衣			
安永3	1774	1	北東	けいせい花洛錦				錦			9	道場	雁土産今織上布			今織	上布
		7	北東	太平記囃子	鑑				文化2	1805	8	北野下 の森	恋女房染分手綱			染分	
安永4	1775	2	北東	睦月山の腹帯	帯				文化3	1806	10	北野新 地力	京羽二重新ひなかた				羽二重
安永5	1776	7	北東	切附紋鑑■(ゆかたびら)	かたびら						3	北	都鹿子娘道成寺			鹿子	
安永6	1777	10	北東	浪花染門出大紋	大紋		浪花染		文化4	1807	6	北	染模様袴背門松			染	染模様
安永7	1778	1	南	けいせい博多織			博多織				11	北	大塔宮囃子	鑑			
		5	南	隔気風簾蒲帷子	帷子				文化5	1808	5	北	秋美の恋衣	衣			
安永8	1779	10	北東	ゆふせん染雛形八景	ゆふせん染						6	北	京鹿子娘道成寺			鹿子	
			北東	伊達頭巾出入漢	頭巾						11	南	恋女房染分手綱			染分	
安永9	1780	3	北	恋女房染分手綱			染分				4	北	雪時花娘緋鹿子			鹿子	
天明元 (安永10)	1781	1	北東	道行月花雪振袖	振袖				文化6	1809	4	北	浪花津血汐色調	襦			
		5	北	袷合襦袢錦			織	錦			5	道場	浪花染血汐帷子	帷子			
		3	北西	乱拍子花の振袖	振袖						6	北	夏衣裳履金五紋	衣裳			
天明3	1783	5	北西	乱拍子花の振袖	振袖						7	北野下 の森	染模様袴背門松			染	染模様
			北西	博多織			博多織				8	北	敵討郡山染			郡山染	
天明4	1784	4	北西	夏浴衣清十郎染	浴衣		清十郎染				11	南	織合襦袢錦			織	錦
天明5	1785	8	北東	太平記囃子	鑑				文化7	1810	6	京橋裏路	花柳袴布染			染	
天明6	1786	3	北東	優然染座敷八景			優然染				2	南	織合安楽録			織	
天明7	1787	4	北西	振合都袖笠	袖・笠						3	北	壇浦兜軍記			兜	
		11	北西	■(おし) 鰻引也袖襦	袖・襦				文化8	1811	5	南	京羽二重新雛形				羽二重
天明8	1788	8	北東	恋女房染分手綱			染分				8	北	大塔宮囃子	鑑			
寛政2	1790	7	北西	織始室町錦			織	錦			11	北	京鹿子娘道成寺			鹿子	
寛政3	1791	6	北西	郡山染			郡山染		文化9	1812	8	南	恋衣惣二面	衣			
		10	北東	敵討郡山染			郡山染				9	南	染模様袴背門松			染	染模様
寛政4	1792	5	北西	遠模様襦袢	襦		伊達模様		文化10	1813	10	南	染模様袴背門松			染	染模様
寛政5	1793	3	北東	道行ひなの裳袴	裳						11	南	沢紫初七反			沢紫	
		6	北東	夏衣裳履染	衣裳		雁金染				1	北	京鹿子娘道成寺			鹿子	
寛政6	1794	10	東	織合襦袢錦			織	錦	文化13	1816	4	道場	恋女房染分手綱			染分	
		6	北東	隔気風簾蒲帷子	帷子						11	北	敵討襦袢錦				錦
寛政7	1795	8	北東	恋女房染分手綱			染分		文化14	1817	4	京橋裏路	艶鏡石川染			石川染	
寛政8	1796	5	北東	艶鏡石川染			石川染										

歌舞伎と芝居・役者絵における広告的役割

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
文化 14	1817	4	中書島	織合襷襦袢		織		錦	弘化 2	1845		東	傾城石川染		石川染		
		9	因幡楽師	恋女房染分手綱		染分					3	北	大和国茜染		茜染		
		11	北	倭然染座敷八景		倭然染					5	南	大和国茜染		茜染		
		11	南	都御花染分手綱		染分					7	左女牛	置土産今織上布		今織		上布
文政元 (文化 15)	1818	1	北	織合襷襦袢		織		錦	弘化 3	1846	10	宮川町	花博金襴襦袢		染		
文政 2	1819	1	道場	時代織室町錦織		時代織		錦			4	南	恋女房染分手綱		染分		
		1	南	けいせい石川染		石川染					8	宮川町	けいせい染分縹		染分		
文政 3	1820	5	南	錦のつたかつら				錦			10	宮川町	染模様袷門松		染	染模様	
		7	因幡楽師	作間土産今織上布		今織		上布	弘化 4	1847	11	北	恋女房染分手綱		染分		
文政 4	1821	8	北	大塔宮囃子		囃					3	宮川町	染模様袷門松		染	染模様	
		1	因幡楽師	織合襷襦袢		織		錦			3	左女牛	恋女房染分手綱		染分		
文政 5	1822	3	道場	京羽二重新雛形				羽二重			6	南	大塔宮囃子		囃		
		5	南	恋女房の錦		裳			弘化 5	1848	8	北	横浦兜軍記		兜		
文政 6	1823	11	北	調色染分縹		染分	調色				11	南	石川染		石川染		
		7	因幡楽師	藍枯襦袢金小紋			小紋				2	宮川町	敵討襷襦袢				錦
文政 7	1824	11	北	横浦兜軍記		兜			高永 2	1849	2	左女牛	昔八丈恋結鹿子		鹿子		
		1	北	いとゆふ花の裳		裳					4	宮川町	置土産今織上布		今織		上布
文政 8	1825	4	北	織合安楽録		織					10	宮川町	京羽二重新雛形				羽二重
		11	南	恋女房染分手綱		染分			高永 3	1850	2	南	染模様袷門松		染	染模様	
文政 9	1826	7	道場	置土産今織上布		今織		上布			4	北	昔時花恋結鹿子		鹿子		
		2	道場	傾城遠花染		遠花染					5	北	けいせい石川染		石川染		
文政 10	1827	6	因幡楽師	横浦兜軍記		兜					8	南	染模様袷門松		染	染模様	
		7	北	染模様袷門松		染	染模様		高永 4	1851	6	南	恋女房染分手綱		染分		
文政 11	1828	9	因幡楽師	倭然染座敷八景		倭然染					7	宮川町	伊達娘恋結鹿子		鹿子		
		8	因幡楽師	大塔宮囃子		囃					11	南	けいせい石川染		石川染		
文政 12	1829	1	道場	染模様袷門松		染	染模様		高永 6	1853	2	南	重襦袢の小夜衣		衣		
		4	因幡楽師	京羽二重新雛形			羽二重				7	松原	横浦兜軍記		兜		
天保元 (文政 13)	1830	10	因幡楽師	織合襷襦袢		織		錦			8	南	横浦兜軍記		兜		
		10	因幡楽師	染模様袷門松		染	染模様		安政 2	1855	2	松原	昔時花恋結鹿子		鹿子		
天保 2	1831	3	道場	恋女房染分手綱		染分					5	南	織合安楽録		織		
		2	因幡楽師	調色染分縹		調色染分					11	北	染模様袷門松		染	染模様	
天保 3	1832	2	道場	倭然染座敷八景		倭然染			安政 4	1857	4	北	染模様袷門松		染	染模様	
		4	因幡楽師	織合安楽録		織					5	北	横浦兜軍記		兜		
		4	道場	京羽二重新雛形			羽二重				11	北	傾城染分縹		染分		
		5	道場	敵討郡山染		郡山染			安政 5	1858	3	北(東)	傾城石川染		石川染		
天保 4	1833	5	道場	置土産今織上布		今織		上布			3	北(東)	江戸紫男道成寺				江戸紫
		11	北	染模様袷門松		染	染模様				3	南	大塔宮囃子		囃		
	1834	1	南	けいせい吉岡染		吉岡染			安政 6	1859	11	南	道行仇結鹿子帯		鹿子帯		
		5	南	染模様袷門松		染	染模様				9	北	重襦袢の小夜衣		衣		
天保 5	1834	8	道場	伊達娘恋結鹿子		鹿子					1	南	横浦兜軍記		兜		
		6	道場	伊達娘恋結鹿子		鹿子			万延元 (安政 7)	1860	3	道場	けいせい染分縹		染分		
		8	宣願寺	置土産今織上布		今織		上布			8	道場	伊達娘恋結鹿子		燕都袴		
		2	宣願寺	倭然染座敷八景		倭然染					9	道場	伊達娘恋結鹿子		燕都袴		
天保 6	1835	3	道場	敵場製伊達東袴		東袴	劇場製		文久元 (万延 2)	1861	9	道場	伊達娘恋結鹿子		燕都袴		
		5	宣願寺	恋女房染分手綱		染分					11	南	恋女房染分手綱		染分		
		7	南	恋女房染分手綱		染分					4	道場	沢紫染の由兵衛		染	沢紫	
		7	南	京羽二重新雛形			羽二重				4	道場	恋女房染分手綱		染分		
天保 10	1839	1	因幡楽師	昔時花恋結鹿子		鹿子			文久 2	1862	5	東	花御所染		御所染		
		3	道場	染模様袷門松		染	染模様				5	北	於国名産花普笠		笠		
		7	北	置土産今織上布		今織		上布			12	道場	染模様袷門松		染	染模様	
		7	因幡楽師	於国名産物花普笠		笠			文久 2	1862	7	北(東)	置土産今織上布		今織		上布
天保 11	1840	8	道場	京羽二重新雛形			羽二重				9	北(東)	傾城石川染		石川染		
		11	南	艶姿菊振袖		振袖			元治元 (文久 4)	1864	2	南	恋女房染分手綱		染分		
天保 12	1841	1	宣願寺	織合安楽録		織					8	北	置土産今織上布		今織		上布
		11	南	艶姿石川染		石川染			慶応元 (万治 2)	1865							
天保 13	1842	11	南	恋女房染分手綱		染分					1	道場	けいせい染分縹		染分		
		3	道場	京鹿子娘道成寺		鹿子			慶応 2	1866	4	南	伊達娘恋結鹿子		鹿子		
天保 14	1843	9	左女牛	恋女房染分手綱		染分					5	北	恋女房染分手綱		染分		
		9	宮川町	隅田川花御所染		御所染					8	南	大塔宮囃子		囃		
弘化元 (天保 15)	1844	11	北(東)	傾城石川染		石川染					11	北	けいせい石川染		石川染		
		11	南	けいせい石川染		石川染					11	南	傾城染分縹		染分		
		11	北	傾城石川染		石川染											

【大坂】

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
元禄 15	1702	1		大職冠	大職冠				宝暦 7	1757	11	角	恋女房染分手綱		染分		
宝永元	1704	1		三国緑色直衣	直衣				宝暦 9	1759	11	天満	雀籠錦				錦
宝永 2	1705	1		大職冠三世相	大職冠				宝暦 10	1760	9	角	恋女房染分手綱		染分		
宝永 6	1709	11		江戸紫			江戸紫		宝暦 11	1761	11	北新地	大塔宮囃子	簪			
宝永 7	1710	11		新染雛形長者		新染			宝暦 11	1761	12	座摩?	つめの錦				錦
正徳元 (宝永 8)	1711	春		唐綾十二段				唐綾	宝暦 12	1762	12	北新地 (宝永 8)	染分手綱		染分		
正徳 3	1713	1		大名常陸帯	帯				宝暦 12	1762		(源芝居)	双帯恋堀川	帯			
正徳 5	1715	7		初冠愛子若	冠				宝暦 13	1763		(源芝居)	雀籠錦				錦
享保 2	1717	2	東	傾城補襦袢	襦				宝暦 13	1763		(源芝居)	吉岡染	吉岡染			
享保 4	1719	8	中	柳女九重錦				錦	宝暦 13	1763	1	座摩	袂白紋		紋		
享保 5	1720	9	角	大名女以呂波帯	帯				宝暦 13	1763	1	不明 (源芝居)	友禪染		友禪染		
享保 7	1722	11	大西	源氏根様一枚帯				櫛	明和元 (宝暦 14)	1764	7	中	恋女房染分手綱		染分		
享保 8	1723	1	東	天智天皇東帯	東帯				明和元 (宝暦 14)	1764	9	角	織合襦袢		織		錦
享保 9	1724	1	角	お染久松袂白紋	袂	紋			明和元 (宝暦 14)	1764	9	角	礼装襦袢	礼装			錦
享保 10	1725	11	中	氷旗帯命要	帯				明和 2	1765	2	角	恋女房染分手綱		染分		
享保 12	1727	7	中	中山時代迷小袖	小袖				明和 2	1765	12	中	初詣源氏譜	簪			
享保 16	1731	1	中	艶姿当世模様				当世模様	明和 3	1766	7	中	男作後日帷	帷			
享保 17	1732	7	中	艶姿当世模様				当世模様	明和 3	1766	8	角	艶小袖当世模様	小袖		当世模様	
享保 18	1733	2	角	天智天皇朝日冠	冠				明和 4	1767	2	角	今織短夷錦		今織		短夷錦
享保 19	1734	3	中	壇浦兜軍記	兜				明和 4	1767	5	中	恋女房染分手綱		染分		
享保 19	1734	7	中	盆月血汐帷子	帷子				明和 4	1767	2	角	お染久松増補袂白紋	袂	紋		
享保 19	1734	2	角	天智天皇朝日冠	冠				明和 5	1768	5	中	時花服縁入模様	花服		縁入模様	
元文元 (享保 21)	1736	8	角	本調子三筋帯	帯				明和 5	1768	10	中	京鹿子娘道成寺	鹿子			
元文 2	1737	4	角	夏浴衣早月晴	浴衣				明和 6	1769	5	中	端茶染縁出小紋		染	端茶・小紋	
元文 2	1737	5	中	久米仙人袖振山	袖				明和 6	1769	6	角	京羽二重名所井筒				羽二重
元文 3	1738	3	角	子数盛血汐袈沙	袈沙				安永元 (明和 9)	1772	5	角	京羽二重廣藍紋				羽二重
元文 3	1738	3	角	ひななる振袖會我	振袖				安永 2	1773	7	角	大塔宮囃子	簪			
元文 5	1740	3	角	三十三年忌袂白紋		紋			安永 2	1773	10	角	戀忍夫大紋	大紋			
寛保元 (元文 6)	1741	4	大西	五十年忌血汐染三番二重		茜染			安永 2	1773	10	角	織合襦袢		織		錦
寛保元 (元文 6)	1741	12	中	今織合貫鳥		織			安永 4	1775	3	角	簪小袖黒露	小袖			
寛保 3	1743	3	大西	菊水由来染		染			安永 4	1775	7	角	三国漢名所帷子	帷子			
寛保 3	1743	12	筑後 (大西)	大門口鎖襦	鎖				安永 4	1775	4	中	邪乱綿五月腹帯	帯			
延享 2	1745	1	大西	昔形吉岡染		吉岡染	形(こもん)		安永 5	1776	8	中	恋女房染分手綱		染分		
延享 2	1745	9	中	今織合貫鳥		今織			安永 5	1776	10	角	時花服縁入模様	花服		縁入模様	
延享 3	1746	5	中	男形拾帷子	帷子		男形		安永 5	1776	10	中	織合襦袢		織		錦
延享 3	1746	8	角	踊浴衣血汐曉	浴衣				安永 6	1777	12	中	けいせい素抱(のだいり)	素抱			
延享 4	1747	2	角	石橋山鉦模	鉦				安永 7	1778	8	中	織合襦袢		織		錦
延享 4	1747	4	角	和州染殿池		和州染			安永 8	1779	3	角	袖薄播州廻	袖			
延享 4	1747	5	角	男形拾帷子	帷子		男形		安永 8	1779	3	角	鐘模重振袖	振袖			
寛延元	1748	1	角	昔形吉岡染		吉岡染			安永 9	1780	7	角	小袖物狂ひ	小袖			
寛延元	1748	12	中	恋淵(もしほの)紋染	紋染				天明元 (安永 10)	1781	4	角	女節用衣紋考見	衣紋			
寛延 3	1750	5	中	仕着模様振袖譜	振袖				天明元 (安永 10)	1781	3	角	大塔宮囃子	簪			
寛延 3	1750	7	大西	薄雲遊振染	遊振染				天明 2	1782	5	角	大塔宮囃子	簪			
寛延 3	1750	8	中	調色江戸紫			江戸紫		天明 2	1782	10	角	けいせい博多織		博多織		
宝暦元 (寛延 4)	1751	7	角	三人組染貫模様		染貫	染貫模様		天明 3	1783	5	中	織合襦袢		織		錦
宝暦元 (寛延 4)	1751	10	中	恋女房染分手綱		染分			天明 3	1783	7	中	織合つゞれの錦		織		錦
宝暦 2	1752	11	中	袖日記双巴	袖				天明 5	1785	8	中	北新地 筑後(大西)	恋女房染分手綱		染分	
宝暦 2	1752	11	角	名古屋織錦錦		名古屋織			天明 6	1786	2	堀江 市の側	大塔宮囃子	簪			
宝暦 3	1753	3	角	大塔宮囃子	簪				天明 6	1786	2	堀江 市の側	大塔宮囃子	簪			
宝暦 3	1753	8	大西	寄合模様袂白紋		紋			天明 7	1787	8	中	お染久松袂白紋		紋		
宝暦 6	1756	10	角	伊達娘恋結鹿子	鹿子				天明 7	1787	9	中	お染久松袂白紋		紋		
宝暦 6	1756	10	角	伊達娘恋結鹿子	鹿子				天明 8	1788	3	堀江	優然染座敷八景		優然染		
宝暦 6	1756	10	角	伊達娘恋結鹿子	鹿子				天明 8	1788	3	中	大門口鎖襦	鎖			

歌舞伎と芝居・役者絵における広告的役割

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他		
天明8	1788	5	筑後 (大西)	言時花女夫振袖	振袖				文化5	1808	9	角	恋女房染分手綱		染分				
寛政元 (天明9)	1789	1	中	織合襦袢錦		織		錦	文化6	1809	11	南	恋女房染分手綱		染分				
		3	中	大振袖袴廻	大振袖														
		9	中	けいせい蝦夷錦									錦						
		2	角	恋衣行力襦	衣								錦						
寛政2	1790	3	角	お染久松袂白紋		絞					11	堀江市 の側	当世模様優然染		優然染				
		9	角	織合襦袢錦		織						昼土産今織上布		今織		上布			
寛政3	1791	3	角	青庚申ニツ帯帯	帯				文化7	1810			迎駕死期茜染		茜染				
		3	北新地	敵討郡山染		郡山染					8	中	振袖天神記	振袖					
		5	角	陽気風扇負帷子	帷子							大西・竹 田・丸丸	今織上布		今織		上布		
寛政4	1792	11	中	振袖酒吞見	振袖				文化8	1811		北堀江 市の側	藍枯梗雁金小紋			小紋			
		2	中	遠模様襦袢	襦		遠模様					6	北堀江 市の側	大塔宮囃子	囃子				
		8	北新地	優然染座敷八景		優然染						6	北堀江 市の側	大塔宮囃子	囃子				
寛政5	1793	4	角	恋女房染分手綱		染分			文化9	1812	9	中	京鹿子娘道成寺		鹿子				
		5	角	恋女房染分手綱		染分					8		茜染浪花の色揃		茜染				
		8	北新地	風流小袖袖狂ひ	小袖						6	中	大塔宮囃子	囃子					
寛政6	1794	9	中	大塔宮囃子	囃子				文化10	1813	10	堀江 市の側	織合襦袢錦		織		錦		
		11	中	織合襦袢錦		織		錦											
		11	角	織合襦袢錦		織		錦											
寛政7	1795	11		織合つゞれの錦		織		錦	文化11	1814	1	中	許給拙振袖	振袖					
3	中	染模様妹背門松		染	染模様			秋			北堀江 市の側	恋女房染分手綱		染分					
寛政8	1796	4	角	艶艶石川染		石川染					文化12	1815	7	堀江 市の側	洗張古手帷	帷		洗張	
寛政9	1797	5	北新地	染模様妹背門松		染	染模様		文化13	1816			4	中	優然染座敷八景		優然染		
		7	角	襦袢助勤	襦		助勤							4	堀江 市の側	優然染座敷八景		優然染	
		8	北新地	恋女房染分手綱		染分						8		織合襦袢錦		織		錦	
		9	北新地	恋女房染分手綱		染分						5	市の側	國産五月摺	摺				
寛政10	1798	9	中	けいせい博多織	博多織				文政元 (文化15)	1818	5	北新地	大塔宮囃子	囃子			羽二重		
		9	中	遠州中山染		中山染					8	中	京羽二重新離形						
		11	若太夫 (東)	襦袢錦				錦				8	中	時花服縁入模様	花服		縁入模様		
		3	若太夫 (東)	大塔宮囃子		囃子						1	角	錦の葛かつら				錦	
寛政11	1799	5	北新地	大塔宮囃子		囃子			文政2	1819	1	角	壇ノ浦兜軍記	兜					
		8	中	置土産今織上布		今織		上布				春	北堀江 市の側	けいせい石川染		石川染			
		9	角	伊達姿萩燕都裙	燕都裙							7	角	敵討郡山染		郡山染			
		5	住吉	友禪染		友禪染						8	北	大塔宮囃子	囃子				
寛政12	1800	7	北新地	菜種の雲	雲				文政3	1820	9	中	晶屑願社若東染		染				
		8	筑後 (大西)	恋女房染分手綱		染分						1	中	恋花の雲	雲			錦	
		1	中	花の雲	雲							3	角	染模様羅波土産	染	染模様			
享和元 (寛政13)	1801	7	角	振袖蝦夷錦	振袖				文政4	1821	3	中	隅田川花御所染		御所染				
11	中	大塔宮囃子	囃子					9			中	其昔恋結縁		結縁					
4	北新地	優然染座敷八景		優然染				1			中	けいせい染分総		染分					
享和2	1802	5	中	京羽二重新離形				羽二重	文政5	1822	8	角	恋女房染分手綱		染分				
		11	中	東金草浪花着錦				綿				11	中	袂白紋		絞			
享和3	1803	3	角	好縹子帯屋	縹子帯		帯屋		文政7	1824	9	中	恋女房染分手綱		染分				
		5	北新地	恋女房染分手綱		染分					文政8	1825	5	中	優然染座敷八景		優然染		
		5	角	大塔宮囃子	囃子				文政9	1826	1		中	壇ノ浦兜軍記	兜				
		5	角	好縹子帯屋	縹子帯		帯屋		文政10		1827	11	竹田	恋女房染分手綱		染分			
		5	北新地	洗張古手帷	帷		洗張					1	中	けいせい寒袍圖(のだいり)	寒袍				
		10	中	織合襦袢錦		織		錦	文政11	1828	5	竹田	藍枯梗雁金小紋			小紋			
11	北新地	つゞれの錦				錦		8			角	大塔宮囃子	囃子						
文化元 (享和4)	1804	4	中	恋女房染分手綱		染分					春	若太夫	けいせい石川染		石川染				
文化2	1805		竹田	今織上布		今織		上布	天保元 (文政13)	1830	1	中	道行男女帯縁締	帯					
		1	角	江戸紫娘道成寺		江戸紫					4	竹田	染分総		染分				
文化3	1806	8	角	女雁金廓縁		縁					4	角	大塔宮囃子	囃子					
		10	北新地	京羽二重新離形				羽二重				8	北新地	恋女房染分手綱		染分			
文化4	1807	3	中	振袖桜管笠	振袖						8	北新地	染模様妹背門松		染	染模様			
		5	北?	染模様妹背門松		染	染模様					9	角	染模様妹背門松		染	染模様		
文化5	1808	3	角	鐘恨重振袖	振袖				天保2	1831	2	角	恋衣花琴絵	衣					
		7		うらみの恋衣	衣							3	角	京鹿子娘道成寺		鹿子			

年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他	年度 (和暦)	年度 (西暦)	月	劇場	外題	服飾	技法	色・ 模様	他
天保2	1831		竹田	伊達松五十四郎	燕都摺				嘉永3	1850	3	中	伊達松五十四郎				錦
		8	竹田	当世帯深川仕立	帯						7	若太夫	染模様袴門松		染	染模様	
天保3	1832		若太夫	梅紋浮名の色染			染				8	筑後 (大西)	伊達娘恋結鹿子		鹿子		
		9	角	恋女房染分手綱			染分										
		11	竹田	京羽二重新離形				羽二重									
天保4	1833		筑後 (大西)	室町錦				錦	嘉永5	1852	8	筑後 (大西)	茜染野中隠井戸		茜染		
		8	竹田	柳糸九重錦				錦	嘉永6	1853		角	染模様袴門松		染	染模様	
												若太夫	博多新離		博多新離		
天保5	1834		中	けいせい染分総			染分		安政元 (嘉永7)	1854	1	中	けいせい染分縹		染分		
		3	角	追善浅沢紫			沢紫				7	竹田	紙子仕立両面鹿	紙子			
		8	角	仇結縹子帯	縹子帯												
天保6	1835		角	大塔宮囃子	囃子						1	筑後 (大西)	敵討襷縹錦				錦
天保7	1836		角	錦の鳥かつら				錦	安政2	1855		3	角	染模様袴門松		染	染模様
		5	北新地	横重恨敵朝	横						5	筑後 (大西)	色仕込今縹上布		今縹		上布
天保8	1837		堀江市 の劇	横がさ恨敵朝	横							5	若太夫	江戸紫比翼羅金		江戸紫	
		9	若太夫	伊達娘恋結鹿子			鹿子				8	中	横重緑色揚	横	色揚		
天保9	1838		中	けいせい博多縹	博多縹				安政3	1856		1	若太夫	沢紫染由兵衛		染	沢紫
		1	中	染模様袴門松			染	染模様			1	角	横浦兜軍記	兜			
		3	筑後 (大西)	紙圍女御九重錦				錦	安政4	1857		1	角	名護屋帯雲縹	名護屋帯		
天保10	1839		角	島原染七機模様			島原染				3	北	染模様袴門松		染	染模様	
		8	角	伊達娘恋結鹿子			鹿子				8	角	大塔宮囃子	囃子			
		9	中	伊達娘恋結鹿子			鹿子				8	中	道行仇結縹子帯	縹子帯			
		11	角	横浦兜軍記	兜				安政5	1858		1	筑後 (大西)	けいせい染分縹		染分	
天保11	1840		角	伊達娘恋結鹿子			鹿子		安政6	1859		1	福荷北	横城石川染		石川染	
天保12	1841		角	重層萩の伊達染			伊達染				1	角	けいせい石川染		石川染		
		9	中	恋女房染分手綱			染分		万延元 (安政7)	1860		1	竹田	敵討襷縹錦			錦
天保13	1842		北新地	伊達娘の重機	横						3	堀江	恋女房染分手綱		染分		
天保14	1843		中	横合襷縹錦	縹子帯			錦			8	堀江	横重恨敵朝	横			
		1	角	けいせい石川染			石川染		文久元 (万延2)	1861		3	天満	鼠小紋若機新形		鼠小紋	
		3	筑後 (大西)	横城染分縹			染分				7	福荷	大塔宮囃子	囃子			
弘化元 (天保15)	1844		若太夫	伊達娘恋結鹿子			鹿子				8	天満	伊達娘恋結鹿子		鹿子		
		5	筑後 (大西)	紙圍女御九重錦				錦			9	福荷	伊達娘恋結色染分		染分	伊達娘様	
		7	中	横合団七縹			団七縹				9	座摩	色競九重錦				錦
		7	角	横合団七縹			団七縹		文久2	1862		3	座摩	鼠小紋若機新形		鼠小紋	
		9	中	伊達松五十四郎	燕都摺						5	堀江	置土産今縹上布		今縹	上布	
弘化2	1845		中	袖視伊賀越日記	袖						8	天満	敵討襷縹錦			錦	
弘化3	1846		角	横浦兜軍記	兜				文久3	1863		8	御雲	染模様袴門松		染	染模様
		9	中	恋女房染分手綱			染分				9	堀江	染模様袴門松		染	染模様	
		7	中	京羽二重新離形				羽二重	元治元 (文久4)	1864		1	中	けいせい染分縹		染分	
弘化4	1847		若太夫	敵討襷縹錦				錦			6	北新地	置土産今縹上布		今縹	上布	
		8	若太夫	大塔宮囃子	囃子						12	北新地	染模様袴門松		染	染模様	
		1	筑後大西	けいせい石川染			石川染		慶応元 (元治2)	1865		8	筑後 (大西)	恋衣岩倉奈衣	衣		
嘉永元 (弘化5)	1848		角	染模様袴門松			染	染模様			8	堀江	茜染野中隠井戸		茜染		
		4	竹田	染模様袴門松			染	染模様			5	堀江	大塔宮囃子	囃子			
		1	中	けいせい石川染			石川染				11	堀江	東仕入帯縹注文			帯縹	
		1	若太夫	けいせい染分縹			染分		慶応2	1866		1	角	けいせい石川染		石川染	
嘉永2	1849		中	敵討襷縹錦				錦			1	座摩	けいせい染分縹		染分		
		4	中	言時花娘結鹿子			鹿子				12	御雲	恋女房染分手綱		染分		
		5	角	時代鑑室町錦縹	時代鑑・縹			錦	慶応3	1867		4	竹田	恋女房染分手綱		染分	
		5	若太夫	時代鑑室町錦縹	時代鑑・縹			錦			5	堀江	御雲前葛縹帷子	帷子			
											8	筑後 (大西)	横重黒萩伊達染		伊達染		

：立命館大学アート・リサーチセンターが公開している歌舞伎・浄瑠璃データベース 日本演劇興行年表 (Copyright © Ryo Akama, Art Research Center, Ritsumeikan University, All rights reserved)、伊原敏郎『歌舞伎年表第 1-8 巻』岩波書店、1956-1963 を参考に作成した。

：変換ができない場合は■で示し、() 内に読み仮名を示した。

歌舞伎と芝居・役者絵における広告的役割

注 25) 表 4. 役者が役者模様の服飾を着用している例。

模様	作品名	画	所蔵
三升	二代目市川團十郎 中村竹三郎	奥村利信	山口県立萩美術館・浦上記念館
	市川三升	歌川豊国	たばこと塩の博物館
	Ichikawa Danjūrō II in the Scene "Wait a Moment" (Shibaraku)	鳥居清忠	メトロポリタン美術館
	市川團十郎の竹抜き五郎	鳥居清信	東京国立博物館
市松模様	佐野川市松・人形遣	奥村政信	東京国立博物館
	市川富右衛門の蟹坂藤太・三世佐野川市松の祇園白人	東洲斎写楽	東京国立博物館
	関東小六・佐野川市松、馬士市蔵・坂東三八	鳥居清満	たばこと塩の博物館
亀蔵小紋	三重帯裾野模様 京の次郎 市村亀蔵	鳥居清満	たばこと塩の博物館
高麗屋格子	敵討乗合囃	東洲斎写楽	たばこと塩の博物館
	三銀杏御存地染	歌川国芳	たばこと塩の博物館
	佚詞花川戸	春好斎北洲	上方浮世絵館
かまわぬ模様	曾我祭侠競	歌川豊国	たばこと塩の博物館
	堂島救入浜	春好斎北洲	上方浮世絵館
	細工物籃轡評判	歌川国安	たばこと塩の博物館
斧琴菊	細工物籃轡評判	歌川国安	たばこと塩の博物館
芝翫縞	「下部猿次郎 中村芝翫」「小地獄太郎 坂東亀蔵」「名古屋山之助 河原崎権十郎」	歌川豊国 (3)	東京都立中央図書館特別文庫室
	「下部猿次郎 中村芝翫」(四代目)「小地獄太郎 坂東亀蔵」(初代)、「名古屋山之助 河原崎権十郎」(初代)	歌川国貞 (初)	ボストン美術館
	菅原伝授手習鑑	歌川国貞	たばこと塩の博物館
菊五郎格子	花疊艶街下駄傘	歌川国安	たばこと塩の博物館
	大工六三 尾上菊五郎	歌川国貞	山口県立萩美術館・浦上記念館
	早野勘平 尾上菊五郎	歌川国貞 (初)	早稲田大学演劇博物館
	いがみの権太 尾上菊五郎	歌川国貞 (初)	早稲田大学演劇博物館
三津五郎縞	関取二代勝負附	歌川豊国	たばこと塩の博物館
半四郎鹿子	豆腐屋三郎兵衛・坂東三津五郎、妹かさね・岩井半四郎	歌川豊国	たばこと塩の博物館
	糸屋娘おいと 岩井半四郎	歌川国貞	立命館大学アート・リサーチセンター
市村格子	隅田川の夜桜	一恵斎芳幾	たばこと塩の博物館
六弥太格子	市川團十郎演芸百番 浅山鉄山	豊原国周	山口県立萩美術館・浦上記念館
	えびざこの十 市川團十郎	歌川豊国	たばこと塩の博物館
	役者の新年	歌川国貞 (2)	国立劇場
観世水	六三様旨かしくの留書	歌川豊国	たばこと塩の博物館
	其倅浅間嶽	歌川豊国 (初)	国立劇場
花勝見	双蝶々曲輪日記	歌川豊国	たばこと塩の博物館
	関取二代勝負附	歌川豊国	たばこと塩の博物館

：絵師の世代数が明らかなものについては () で示した。